

MapInfo Pro

バージョン 17.0.3

MapInfo Pro リリース ノート

内容

はじめに	2
このリリースに関する注意事項	2
システム要件	80
必要条件	81
MapInfo Pro のデータベース接続とサポート	85
Microsoft Office のサポート	85
MapInfo Pro でサポートされる Web サーバ	86
DVD からのインストールにはドライブ名が必要	86
MapInfo Pro のインストール/アップグレード	87
.MSI ファイルからの MapInfo Pro の修復	94
サポート情報	96
ツールおよびアプリケーションのダウンロード	97
ドキュメントの格納場所の確認	98
サンプル データの強化	99
オープン ソースの所有権	99

はじめに

このドキュメントは、このリリースで導入された新機能および強化された機能を一覧にまとめたものです。各機能の詳細については、MapInfo Pro ヘルプシステムの「MapInfo Pro の新機能」の章を参照してください。本書には、MapInfo® Pro ユーザにとって重要な解決済みの問題と既知の問題に関する情報も記載されています。

このリリースに関する注意事項

MapInfo Pro

MapInfo Pro の新機能

Pitney Bowes Inc. ソフトウェア ファミリの最新コンピュータ マッピング製品にアップグレードいただきありがとうございます。コンピュータマッピングの分野が成長を続ける中、Pitney Bowes Inc. は、コンピュータ マッピングの初心者から専門ユーザまでの幅広いユーザのニーズを満たす製品を次々と世に送り出すことで、この業界をリードしています。本項では、MapInfo Pro 17.0.3 でリリースを予定している特に重要な機能と機能強化をご紹介します。

以下に主なものを示します。

1. MapInfo Pro の Python アドイン

Python スクリプトを利用して、MapInfo Pro 内でアドインや拡張機能を作成できます。MapInfo Pro アドインの作成時に Python 言語と既存のライブラリ/モジュールを利用できます。Python 開発者とデータアナリストは、MapInfo Pro テーブルのデータにアクセスすることで、MapInfo データを簡単に使用できるようになりました。

2. MapInfo Marketplace のプレビュー

豊富な説明とシンプルな更新でアプリケーションを簡単に検索できます。MapInfo Marketplace は、MapInfo Pro に組み込まれているオンライン リポジトリです。このリポジトリは、サンプル データ セット、カスタム シンボル、レイアウト テンプレートなどのさまざまなダウンロードを提供し、MapInfo Pro コミュニティで共有されているツールとデータを使用して、生産性を高め、作業を迅速に完了できるようにします。

3. コマンド エディタ ツールの変更

コマンドエディタ ツールが新しい名前になり、多くの機能が新規追加および変更されました。

4. カスタマイズ可能なショートカット

ユーザがカスタマイズしたシングル キー ショートカットを使用して迅速にマッピングできます。MapInfoPro.MNU ファイル内の `ArrayOfMapInfoProKeyShortcut` タグの下にエントリを作成 / 修正することにより、マップ ウィンドウ用のシングル キー ショートカットをカスタマイズできるようになりました。

5. ジオコード ツールの機能強化

ポイントの作成オプションとプレミアム ジオコーディングの価格が変更されました。

6. ユーザが変更した設定ファイルのバックアップ

アップグレード後に初めて MapInfo Pro を起動したときに、変更されたユーザ固有の設定ファイルがバックアップされます。

7. Drivetime リージョン ツールの変更

プレミアム Drivetime の価格が改訂され、クエリあたり 3 クレジットかかるようになりました。

8. 座標系と投影法

ユニバーサル極地平射図法カテゴリで使用する新しい極地平射図法エントリが追加され、新しい EPSG コードが境界付きおよび境界なしのエストニアの座標系に追加されました。

9. MapInfo MapCAD の更新

MapCAD が新しいバージョン v1703 (18) になりました。

10. ライセンス サーバユーティリティの更新

ライセンス サーバユーティリティが新しいバージョン 5.1 になりました。

11. 24 を超えるお客様の問題の解決

MapInfo Pro バージョン 17.0.3

MapInfo Pro の Python アドイン

MapInfo Pro は、Python 言語でのアドイン作成をサポートするようになりました。これにより、開発者は、MapInfo Pro アドインの作成時に Python 言語と `sono` 拡張ライブラリ / モジュールを利用できます。機能豊富なライブラリのセットを備えた Python は、データ分析および可視化のための最も一般的なプラットフォームです。Python 開発者とデータ アナリストは、MapInfo Pro テーブルのデータにアクセスすることで、MapInfo データを簡単に使用できるようになりました。Python のすべてのライブラリと機能を利用できるだけでなく、数多くのデータ分析ツール (`pandas`、

SciPy、matplotlib など)を使用して MapInfo Pro テーブルの属性データに対するデータ分析を実行できるので、既存機能に多くの機能が追加されます。

MapInfo Pro の Python アドインのセットアップ

Python のセットアップ

1. Python バージョン 3.7 の最新 64 ビット インストーラを <https://www.python.org/downloads/> から入手します。

注: [Downloads] にある Windows x86-64 実行形式インストーラを必ず使用してください。

2. 管理者としてインストーラを実行し、**[カスタム インストール]** を選択します。
3. すべてのユーザ向けにインストールすることを確認します (インストール ディレクトリのデフォルト値は C:\Program Files\Python37)。
4. PATH 変数とプリコンパイル済みバイナリを設定するチェック ボックスをオンにします。

GDAL Python バインディングのインストール

1. 64 ビット Python インストーラをダウンロードします。
2. **OSGeo4W** セットアップ プログラムを実行します。
3. **[詳細インストール]** を選択し、**[次へ]** を押します。
4. **[インターネットからインストール]** を選択し、**[次へ]** を押します。
5. インストールディレクトリを選択します。ほとんどの場合、デフォルトの推奨値で問題ありません。**[次へ]** を押します。
6. **[ローカル パッケージ]** ディレクトリを選択します。ほとんどの場合、推奨値で問題ありません。**[次へ]** を押します。
7. **[直接接続]** を選択し、**[次へ]** を押します。
8. **[download.osgeo.org]** を選択し、**[次へ]** を押します。
9. **[GDAL]** を検索し、GDAL バージョンをインストールします。
10. C:\OSGeo4W64 に OSGeo4W をインストールした場合
 - C:\OSGeo4W64\bin を Path システム環境変数に追加します。
 - GDAL_DATA を C:\OSGeo4W64\share\gdal に定義します。
 - インストールのとおりパスを変更します。
11. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、"pip install --global-option=build_ext --global-option="-IC:\OSGeo4W64\include" --global-option="-LC:\OSGeo4W64\lib" gdal" を実行します。
12. コマンド プロンプト ウィンドウを閉じます。
13. 新しいコマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
14. Python と入力し、**Enter** を押します。Python の対話形式プロンプトが表示されます。

15. 「"from osgeo import ogr"」と入力します。

エラーが発生することなく、GDAL Python バインディングのインストールが検証されます。

コンピュータ環境のセットアップ

以下の2つの SYSTEM 環境変数を Python インストール ディレクトリ (C:\Program Files\Python37 など) に設定します。

1. PYTHONPATH
2. PYTHONHOME

Visual Studio Code (VSCODE) を使用した Python デバッグのセットアップ

1. Python および pylint 拡張機能をインストールして VSCODE を再起動します。
2. 設定を初期化します。設定によって、デバッグセッション中の VS Code の動作が決まります。
設定は、ワークスペースの .vscode フォルダ内に格納されている launch.json ファイルに定義します。
3. デバッグ設定を初期化するには、まずサイドバーの **【デバッグ】** ビューを選択します。

注: まだ設定を定義していない場合は、ドロップダウンリストに「設定がありません」と表示され、設定アイコンにドットが表示されます。

4. Python 設定を使用して launch.json ファイルを生成するには、以下の手順を実行します。

- **【設定】** ボタンを選択するか、**【デバッグ】 > 【開く】** 設定メニュー コマンドを使用します。
- 表示される **【環境の選択】** ドロップダウン リストで、**【Python】** を選択します。

Python 拡張機能によって、事前定義された多数の設定を含む launch.json ファイルが作成され、開かれます。設定を変更 (引数を追加するなど) したり、カスタム設定を追加したりできます。

```
Python: Attach or Python: Remote Attach configuration must be defined
like this.
{
    "name": "Python: Remote Attach",
    "type": "python",
    "request": "attach",
    "port": 5678,
    "host": "localhost",
    "pathMappings": [
        {
            "localRoot": "${workspaceFolder}",
            "remoteRoot": "${workspaceFolder}"
        }
    ]
}
```

5. 初期設定を完了したら、リモート デバッグ用に VSCODE をセットアップします。

- `python -m pip install --upgrade ptvsd` を使用して、ptvsd を使用環境にインストールします。
- その ptvsd がデバッグに使用するデフォルト ポートは **5678** です。適切なファイアウォールまたは他のネットワークの設定で、このポートをデバッグ用にオープンしなければならない場合があります。

上記のセットアップを完了したら、VSCODE を Python アドインの作成およびデバッグに使用できます。

詳細については、次の VSCODE の Python のデバッグを参照してください。

<https://code.visualstudio.com/docs/python/debugging>

関連記事

- Python のチュートリアル: <https://docs.python.org/3.7/tutorial/index.html>
- Python のドキュメント: <https://docs.python.org/3.7/index.html>

MapInfo Pro の Python アドインの使用

MapInfo Pro の Python アドインの作成

MapInfo Pro のアドインを Python で作成するには

1. **MapInfo Pro の Python アドインのセットアップ** (4ページ) を参照して、開発およびデバッグ環境をセットアップします。
2. 既存の Python アドイン テンプレートのいずれかを使用して、独自のアドインを作成します。
MapBasic 17.0.3 には、単純な MapInfo Pro アドインまたはレイアウト カスタム フレーム アドインを Python で作成するための 2 つの Python アドイン テンプレートが含まれています。
 - `SAMPLES\RIBBONINTERFACE\Python\py_addin_templates\Simple`
 - `SAMPLES\RIBBONINTERFACE\Python\py_addin_templates\CustomFrame`
3. 上記のアドイン テンプレートのいずれかをコピーして、修正を開始します。まず、ファイル (PY および MB) の名前をアドイン名に変更します。
4. 新しいファイル名に合わせてモジュール参照の名前を変更します。
 注: 要件に合わせてコードを修正できるように、PY ファイルには TODO コメントが含まれています。
5. アドインを MapInfo Pro にロードするには、MapBasic 17.0.3 を使用して MB ファイルを作成し、MBX を実行します。

注: MapBasic MB ファイルの名前は、メイン Python モジュール ファイルと同じにしてください。

注: アドインをロードするには、メイン Python モジュール ファイル内に以下のクラスが存在している必要があります。

```
# this class is needed with same name in order to load the python
addin and can be copied
# as it is when creating another addin.
class main():
    def __init__(self, imapinfofro):
        self._imapinfofro = imapinfofro

    def load(self):
        try:
            # uncomment these lines to debug the python script using
VSCODE
            # Install ptvsd package into your environment using "pip
install ptvsd"
            # Debug in VSCODE with Python: Attach configuration

            # ptvsd.enable_attach()
            # ptvsd.wait_for_attach()

            # here initialize the addin class
            if self._imapinfofro:
                # obtain the handle to current application if needed
                thisApplication =
self._imapinfofro.GetMapBasicApplication(os.path.splitext(__file__)[0]
+ ".mbx")
                # TODO: change your addin class name here.
                self._addin = MyAddin(self._imapinfofro,
thisApplication)
            except Exception as e:
                CommonUtil.sprint("Failed to load: {}".format(e))

    def unload(self):
        try:
            if self._addin:
                self._addin.unload()
                del self._addin
                self._addin = None
            except Exception as e:
                CommonUtil.sprint("Failed to unload: {}".format(e))

    def __del__(self):
        self._imapinfofro = None
        pass
```

VSCODE での Python アドインのデバッグ

1. VSCODE で、作成した Python アドインまたはいずれかの Python アドイン サンプルのフォルダ (例: .\SAMPLES\RIBBONINTERFACE\Python\HelloPython) を開きます。
2. MapBasic IDE または Notepad++ などを使用して、アドインの *.mbx をコンパイルします。

3. Python アドインのソース コード内に以下の行を追加します。

```
import ptvsd
# Allow other computers to attach to ptvsd default port.
ptvsd.enable_attach()
# Pause the program until a remote debugger is attached
ptvsd.wait_for_attach()
```

注: 既存のサンプルをデバッグする場合は、上記のコード スニペットのコメントアウトを解除してください。

4. MapInfo Pro v17.0.3 以降でアドインの MBX を実行します。MBX を MapInfo Pro で実行すると、プロセスがデバッガのアタッチを待機していることを示す待機カーソルが表示されます。
5. VS Code で **[デバッグ]** ビューに切り替えて、**[Python: アタッチ設定]** を選択します。
6. デバッグを開始するコードにブレークポイントを設定します。

注: `ptvsd.wait_for_attach()` 行の直後の文に唯一のブレークポイントを設定すると、機能しない場合があります。別の文に他のブレークポイントを1つ以上設定してください。

7. 変更した Python のアタッチ設定を使用して、VS Code デバッガを起動します。VS Code がローカルに設定されたブレークポイントで停止し、コードを1行ずつ実行したり、変数を調べたり、その他すべてのデバッグ操作を実行することができます。デバッグコンソールで入力した式は、リモート コンピュータでも実行できます。
8. リモート デバッグ中は、デバッグ ツールバーが表示されます。このツールバーの切断ボタン (Shift+F5) でデバッガを停止し、リモート プログラムを実行して完成させることができます。

MapInfo Marketplace のプレビュー

MapInfo Marketplace は、MapInfo Pro に組み込まれているオンラインリポジトリです。このリポジトリは、サンプル データ セット、カスタム シンボル、レイアウト テンプレートなどのさまざまなダウンロードを提供し、MapInfo Pro コミュニティで共有されているツールとデータを使用して、生産性を高め、作業を迅速に完了できるようにします。

この Marketplace の主な目的は、MapInfo Pro のアドインやツールを簡単に見つけたりメンテナンスしたりできるようにして、顧客体験を向上させることです。既存のアドインやツールはすべて、引き続き無償で使用できます。今後は、MapInfo Pro の中核的な機能を拡張する新しい MapInfo Pro アプリも発表予定です。これらのアプリは、購入前に、試用期間付きの評価版で、MapInfo Pro ユーザにご利用いただけます。

Marketplace は、ユーザのニーズに対して迅速に応えるためのツールです。MapInfo Marketplace の狙いは、機能や修正をすばやく効果的に公開することによって、要求から開発、提供までの期間を短縮することです。

通常の MapInfo Pro リリースを通じて開発する MapInfo Pro のアドインとツールも引き続き提供されます。

MapInfo Marketplace へのアクセス

MapInfo Marketplace は、MapInfo Pro を起動すると自動的に読み込まれます。MapInfo Marketplace を起動するには、**[ホーム]** タブの **[ツール]** ボタン グループから **[MapInfo Marketplace]** をクリックします。しかし、何らかの原因でこのコントロールが表示されない場合は、以下の手順を使用して、手動でアドインを読み込まなければならないことがあります。

1. **[ホーム]** タブをクリックしてから **[ツール拡張機能]** をクリックして、**[ツール マネージャ]** ウィンドウを起動します。
2. **[ツール マネージャ]** ウィンドウの **[登録済み]** タブで、**[MapInfo Marketplace]** をダブルクリックしてアドインを読み込みます。**[ホーム]** タブの **[ツール]** ボタン グループに **[MapInfo Marketplace]** ボタンが表示されるようになります。初回実行時は MapInfo Marketplace の更新が確認され、必要なアップグレードがあれば実行されるので、時間がかかる場合があります。

注: MapInfo Marketplace には、Pitney Bowes のオンライン アカウントが必要です。まだログインしていない場合は、資格情報の入力を求められます。これは、ユーザのダウンロードを追跡して、使用状況と要件に合ったアドインを推奨できるようにすることで、顧客体験を向上させるためのものです。

MapInfo Marketplace の使用

MapInfo Marketplace を使用するには

1. **[ホーム]** タブの **[ツール]** ボタン グループから **[MapInfo Marketplace]** をクリックして MapInfo Marketplace を起動すると、ダウンロードできる製品の一覧が表示されます。
2. ダウンロードしてインストールしたい製品をクリックします。すると、**[製品をインストール]** ボタンと共に製品の詳細、スクリーンショット、発行者情報などが表示されます。
3. **[製品をインストール]** ボタンをクリックして、選択した製品をダウンロードし、インストールします。

インストールすると、製品が **[ツール マネージャ]** ウィンドウの **[実行中]** タブに表示されます。

注: ダウンロード済みの製品は MapInfo Pro に登録されただけで、自動的に読み込まれません。そのため、MapInfo Pro を再起動すると、これらの製品は自動的に読み込まれませんが、**[登録済み]** タブから手動で読み込む必要があります。

ダウンロードした製品を MapInfo Pro が起動するたびに実行したい場合は、製品の自動読み込みを選択することができます。

1. **[ホーム]** タブで **[ツール拡張機能]** ボタンをクリックして、**[ツール マネージャ]** ウィンドウを起動します。
2. **[ツール]** ウィンドウの **[登録済み]** タブをクリックします。
3. 自動読み込みを実行したいツールの **[自動読み込み]** チェックボックスをオンにします。

MapInfo Pro バージョン 17.0.2

MapInfo Viewer

Pitney Bowes オンライン アカウントを登録済みの MapInfo Pro ユーザは、MapInfo Pro を接続済み Viewer 専用 (サブスクリプション) モードで実行できます。

MapInfo Pro の Viewer バージョンを実行するには、最初にオンライン アカウントを作成する必要があります。この操作は、MapInfo Pro Viewer を最初に実行するときに MapInfo Pro の[バックステージ サービス] タブで行うか、次の場所にアクセスして行うことができます:

<https://signup.pitneybowes.com/signup/mipro>

注: ログインするユーザの切り替えは、[バックステージ サービス] タブで行えます。

MapInfo Viewer の機能については、[対応する機能と制限事項](#) (10ページ) を参照してください。

対応する機能と制限事項

MapInfo Pro を **Viewer** (サブスクリプション) モードで実行すると、起動時に Pitney Bowes アカウントに接続します。各 MapInfo Pro アカウントは 1 つの Viewer サブスクリプション プランに割り当てられます。プランによって MapInfo Pro で使える機能の内容が決まっています。現在は 1 つのプラン、つまり Viewer しかありません。将来は、機能のレベルが異なる無償または有償のプランを提供する予定です。また、プランへの機能の追加や削除により、各プランで利用できる機能の内容が今後変更されることがあります。

MapInfo Pro Viewer は、MapInfo Pro でサポートされるすべての言語をサポートします。

機能と制限事項

- MapInfo Viewer (サブスクリプション) モードでは、任意の MapInfo Pro ワークスペース (.wor) ファイルを開いて表示することができます。また、データを表示して確認するために、MapInfo .tab ファイルやサポートされている他の形式のファイル (Geopackage、CSV、Excel、SQL Server、PostGIS など) を開くこともできます。
- データの編集はできません (制限事項)。ワークスペースへの変更内容を保存することもできません。
- クエリ、検索、データの閲覧、マップ レイアのオン/オフなど、一部の分析操作は可能です。マップやレイアウトの印刷 (および PDF へのエクスポート) は可能です。
- 印刷前に、レイアウトのテキストや画像枠を編集することは、制限がありますが可能です。
- 実行できるツールに制限があります。MapInfo Pro アドインまたはプログラム (.mbx) を実行することはできません。
- Bing のベースマップや検索機能を使用するには、Bing キーが必要です。このキーは、[バックステージ ライセンス] タブで入力できます。

- 組織内に MapInfo Pro の完全なライセンス版を使用するユーザがいて、このユーザが作成したワークスペースを MapInfo Pro Viewer のみを使用する別のユーザが共有し、表示するといったシナリオを想定しています。
- MapInfo Viewer のテクニカル サポートは、インストールに関する問題が起きた場合にのみご利用いただけます。各地域担当のサポートの連絡先については、弊社ウェブサイトのサポートセクションをご覧ください。

注: MapInfo Pro を Viewer (サブスクリプション) モードで使用する場合、**Customer Experience Program** への参加を解除することはできません。この機能はデフォルトでオンになります。MapInfo Pro の通常のライセンス コピーを使用する場合は、Customer Experience Program への参加は任意であり、バックステージ ([Pro] タブ、オプション、アプリケーション環境設定) からオン/オフを切り替えることができます。

スタイル設定

Viewer には穏やかなグレーのスタイルを使用し、MapInfo Pro には従来よりややカラフルなブルーのスタイルを使用します。

Pro を以前のスタイルで使用する場合は、"OverrideDefaultStyle" キーを "true" に変更します (このキーは MapInfo Pro インストール フォルダの styles\MapInfoProStyle.xml ファイル内にあります)。

注: このファイル内には、Pro と Viewer に行われたスタイル変更の詳細な説明も書き込まれています。

実行方法

MapInfo Pro インストーラは、MapInfo Pro を Viewer (サブスクリプション) モードで起動するショートカット (アイコン) を Windows の [スタート] メニューに追加します。このアイコンは、MapInfo Pro の通常の [スタート] メニュー ショートカットの隣に配置されます。

MapInfo Pro の通常のライセンス バージョンと試用版の Viewer (サブスクリプション) バージョンは、同じ MapInfoPro.exe を使用します。MapInfo Pro を実行するモードを指定する方法は 3 とあります。

- コマンド ライン
 - Pro を Viewer モードで起動する: MapInfoPro.exe /Subscription=On
 - プランを指定して Pro を Viewer モードで起動する: MapInfoPro.exe /Subscription=plannid
 - Pro を完全なライセンス モードで起動する: MapInfoPro.exe /Subscription=Off
- MapInfoPro.exe.config
 - appSettings セクションへのキーの追加
 - Pro を完全なライセンス モードで起動する: <add key="Subscription" value="Off"/>

- Pro を Viewer モードで起動する: `<add key="Subscription" value="On"/>`
- 'planid' というプランを指定して Pro を Viewer モードで起動する: `<add key="Subscription" value="MIPRO_Viewer"/>`

Pro を Viewer モードから完全なライセンス バージョンに切り替える

[スタート] メニューのショートカットを使って MapInfo Pro を起動します。ライセンス キーの入力が求められたら、入力して MapInfo Pro を有効化します。

外観と操作方法

MapInfo Viewer の追加により、MapInfo Pro の 2 つのモードを外観で区別できるようにすることが必要になりました。そのために、新しいスタイル設定が MapInfo Pro と MapInfo Viewer に追加されました。

Viewer には穏やかなグレーのスタイルを使用し、MapInfo Pro には従来よりややカラフルなブルーのスタイルを使用します。

MapInfo Pro を以前のスタイルで使用する場合は、"OverrideDefaultStyle" キーを "true" に変更します (このキーは MapInfo Pro インストール フォルダの `styles\MapInfoProStyle.xml` ファイル内にあります)。(MapInfo Pro Runtime についても同様)

注: このファイル内には、MapInfo Pro と Viewer に行われたスタイル変更の詳細な説明も書き込まれています。

MapInfo Pro の Viewer バージョンは、Windows タスクバーと MapInfo Pro メイン ウィンドウにやや異なるアイコンで表示されます。[ようこそ] ウィンドウとバックステージに関するページには、使用中のサブスクリプションの種類が表示されます。現在は 'Viewer' です。

上記の制限事項のほかに、外観の違いもあります。MapInfo Pro のユーザ インターフェイスから不要な機能を非表示にして、Viewer の操作をわかりやすくしています。たとえば、[空間] タブ全体や、[マップ] タブと [テーブル] タブの一部のグループが非表示になっています。リボンにあるその他のコマンドは、非表示または無効になっています。現在のプランで使用できないためコマンドが無効になっている場合は、ツールチップがそれを伝えます。

サブスクリプション モードで Pro を実行すると、プラン名に基づいて個別のウィンドウやリボンのカスタマイズを提供するため、ドッキング状態とリボン状態のファイルに異なる名前が使用されます。次に例を示します。

- MapInfoPro.RibbonState_Viewer.<言語コード>.xml
- MapInfoPro.DockingState_Viewer.xml

ファイルの関連付け

MapInfo Pro は、ワークスペース (*.wor) やテーブル (*.tab) などの登録済みのファイル タイプがダブルクリックされると起動し、レジストリ キーの値をチェックして、Viewer (サブスクリプション) モードで実行するのか、通常モードで実行するのかを確認します。

このレジストリ キーは、次の場所にあります。

```
HKEY_CURRENT_USER\Software\MapInfo\MapInfo\Professional\1700\CloudVersion,
and
```

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\MapInfo\MapInfo\Professional\1700\CloudVersion
```

HKEY_CURRENT_USER キーが存在すれば、その値を使用します。存在しない場合は、**HKEY_LOCAL_MACHINE** 値を探します。

CloudVersion レジストリ キーの値が 1 であれば、MapInfo Pro はサブスクリプション モードで起動します。

CloudVersion レジストリ キーの値が 0 の場合またはこのキーが存在しない場合、MapInfo Pro は通常のライセンス モードで起動します。

このレジストリ キーのデフォルト値を切り替えるために、MapInfo Pro がインストールされる場所に 2 つのファイルがインストールされます。

- DefaultToFullPro.reg - 通常のライセンス モードをデフォルトに設定します。
- DefaultToSubscription.reg - Viewer (サブスクリプション) モードをデフォルトに設定します。

どちらかのファイルをダブルクリックすると、レジストリ キー値が設定されます。

新しいレイアウト コマンド

レイアウト内で項目を選択して配置方法を指定するために、4つの新しいレイアウト コマンドを追加しました。これらのコマンドは、Run Menu Command として使用するか、**[リボンのユーザ設定]** ダイアログから選んで使用する (つまり、**[レイアウト]** ミニツールバーなどのミニツールバーに追加して、クイック アクセス ツールバー (QAT) で使用する) ことができます。

- **[水平方向に等間隔で配置]**: 選択したオブジェクトを水平方向に等間隔になるように配置します。選択したオブジェクトは、選択したオブジェクトの MBR の左右の範囲を基準に配置されます。
- **[垂直方向に等間隔で配置]**: 選択したオブジェクトを垂直方向に等間隔になるように配置します。選択したオブジェクトは、選択したオブジェクトの MBR の上下の範囲を基準に配置されます。
- **[ページ上で水平方向に等間隔で配置]**: 選択したオブジェクトを現在のページ設定で水平方向に等間隔になるように配置します。選択したオブジェクトは、レイアウト ページの上下左右の余白を考慮して配置されます。
- **[ページ上で垂直方向に等間隔で配置]**: 選択したオブジェクトを現在のページ設定で垂直方向に等間隔になるように配置します。選択したオブジェクトは、レイアウト ページの上下左右の余白を考慮して配置されます。

[リボンのユーザ設定] ダイアログを使用して新しいコマンドを追加する方法については、MapInfo Pro で「**リボンのカスタマイズ**」を参照してください。

4つの新しいコマンドのうち次の2つは、**[レイアウト]** タブの**[配置]**メニューでも使用できます。

- 水平方向に等間隔で配置
- 垂直方向に等間隔で配置

GeoMap ベース マップ

3つの新しいベース マップが追加されました。これらのベース マップは、Pitney Bowes GeoMap サービスを使用するタイルサーバのマップです。このサービスを実行するには、Pitney Bowes アカウントにログインする必要があります。新しいベース マップは、**GeoMap ブロンズ**、**GeoMap スチール**、および **GeoMap アイアン**です。各マップが使用する基本データは共通ですが、主題を表す色が異なります。これらの主題をプレビューする方法や各マップの詳細については、<https://locate.pitneybowes.com/geomap> を参照してください。

GeoMap ベース マップ レイヤの追加

これらの新しいマップにアクセスするには、**[ホーム]** タブに移動し、**[開く]** ボタンを展開します。3つの GeoMap 項目は、**[ベース マップ]** グループ内に Bing ベース マップに隣接して表示されます。

GeoMap ボタンをクリックすると、現在のウィンドウがマップである場合に MapInfo Pro はレイヤをそのマップに追加します。現在のウィンドウがマップではないか、開いているウィンドウがない場合、MapInfo Pro はレイヤを持つ新しいマップを作成します。前述のようにこれらのマップを使用するには、Pitney Bowes アカウントにログインする必要があります。ログインしていない場合は、これらのマップを使用するときにログインが求められます。**[Pro]** タブに移動し、**[サービス]** をクリックしてログインすることもできます。

GeoMap テーブルの名前と場所

GeoMap ブロンズ、**GeoMap アイアン**、および **GeoMap スチール** に対応する 3つのテーブルが、MapInfo Pro がインストールされた TileServer というサブディレクトリにインストールされます。以下のファイルが存在します。

表 1:

GeoMap ブロンズ	GeoMap アイアン	GeoMap スチール
GeoMapBronze.TAB	GeoMapIron.TAB	GeoMapSteel.TAB
GeoMapBronze.XML	GeoMapIron.XML	GeoMapSteel.XML

MapInfo Pro バージョン 17.0.1

複数言語のインストーラ

MapInfo Pro バージョン 17.0.1 から、MapInfo Pro の新しいバージョンを提供する方法を変更しました。これまでの MapInfo Pro は、アップデートをリリースするためにパッチを提供しました。

この方法では、パッチを基本インストールに適用する必要があります。現在は、MapInfo Pro のアップデート リリースは、アップグレード インストーラとして提供されます。アップグレード インストーラは、パッチよりも大きくはなりますが、新機能の提供をずっと柔軟に行うことを可能にします。また、累積パッチを適用する必要もなくなりました。最新のアップグレード インストーラを使って新規にインストールするか、バージョン 17.0 より以前のいずれかのバージョンをアップグレードするだけです。

詳細については、「[MapInfo Pro のインストール/アップグレード](#) (87ページ)」を参照してください。

MapInfo Pro バージョン 17.0.0

カスタマー エクスペリエンス向上プログラム

お客様による弊社の製品の使用状況や製品の使用に伴う問題、最も頻繁に使用されている機能に関する情報を収集するためのカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (EIP) を策定しました。弊社はこのプログラムを通じて、お客様に最高のユーザ エクスペリエンスを提供するための的確な改良を継続的に実施できると考えております。

EIP への参加は強制ではありません。インストール中に、EIP への参加をお願いするメッセージが表示されます。製品のインストール時に (またはその後のいつの時点でも) EIP に参加しない旨をお申し出いただくことができます。製品のオプション、設定、またはヘルプのメニューから、設定を変更して参加を取り止めることができます。

EIP 参加の更新は、DWORD エントリを以下のレジストリ キーに追加することで行えます。

```
\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\MapInfo\MapInfo\Professional\1700\
```

新しい DWORD エントリ **Optin** を、ご希望に応じて次のどちらかの値で追加します。

- 0 = EIP に参加しない
- 1 = EIP に参加する

MapInfo Pro のインストール中に、コマンドラインを使用して、以下のスイッチで EIP への参加を設定することもできます。

- 「CUSTEXPPRG="True\」を入力すると、インストーラは **Optin** レジストリ キーを値 1 で追加します。
- 「CustExpProg="False\」を入力すると、インストーラは **Optin** レジストリ キーを値 0 で追加します。

コマンドライン インストールの詳細については、「[MapInfo Pro のサイレント インストール](#)」を参照してください

[ようこそ] ウィンドウ

[ようこそ] ウィンドウは、MapInfo Pro を起動すると表示される、情報と機能を提供するページです。このページでは、最近使用したテーブルとワークスペースにすぐにアクセスでき、ユーザがこれから新しく開きそうなテーブルとワークスペースも提示されます。

新しいサンプル ワークスペース

MapInfo Pro をインストールすると、ワシントン DC 地区の **StreetPro**、**POI**、**Parcel**、および **Elevation** データが含まれる新しいサンプル ワークスペースがデフォルトで以下の場所に配置されます。

```
<MapInfo Pro Installation
Directory>\Professional\SampleWorkspace\WashingtonDCSample.WOR
```

このワークスペースには [ようこそ] ページからもアクセスできます。[ようこそ] ページの [ワークスペース] で サンプル ワークスペース] をクリックします。

また、その他のサンプル データセットをダウンロードできるようにする予定です。

クイック検索ツール

[クイック検索] を使用すると、MapInfo Pro リボン上のコマンドをすばやく検索して実行できます。さまざまなタブ、サブメニュー、またはバックステージのアイテムとして階層の下の方にまとめられているコマンドであっても、[クイック検索] ツールを使えば、検索ボックスに入力したクエリに従って関連するすべてのコマンドをリストできます。

ジオコード ツール

ジオコード ツールは、MapInfo Pro のインストール時にデフォルトで読み込まれるツールです。このツールは、以前の [サーバを使用してジオコード化] ユーティリティの代わりとなります。このツールを使用すると、地理座標を住所などのデータに割り当てることができます。各住所に割り当てられた座標値を使用して各レコードが地理オブジェクトに変換され、MapInfo Pro によってマップ上に表示されます。レコードをマップ上で視覚化することによって、データ間の関係がわかりやすくなります。ジオコード化したレコードは、道路マップ、郵便番号中心点マップ、郡マップなど、目的に応じたマップで表示することができます。MapInfo Pro マッピングソフトウェアに備えられている幅広い機能を使用して、検索、主題図の作成、区域の作成など、さまざまな種類の地理分析を実行できます。

MapInfo Pro は、以下に接続してそうした機能を実現します。

- Spectrum Spatial Server
- Pitney Bowes LI API

ジオコード ツールは、[ホーム] タブの [ツール] グループにある [ツール エクステンション] ドロップダウン リストから読み込みまたは読み込み解除できます。

注: 以前の**【サーバを使用してジオコード化】**ユーティリティを表示できるのは、ジオコードツールが読み込まれていない場合のみです。ジオコードツールが読み込まれた後は、以前のユーティリティは置き換えられます。

注: バージョン 17.0.3 から、**【詳細オプション】**の**【ポイントの作成】**オプションがデフォルトで選択されています。

ジオコード ツールへのアクセス方法:

1. このコマンドを使用する場合は、開いているテーブルが必要です。
2. **【空間】**タブの**【作成】**グループの**【ジオコード】**リストで、**【サーバを使用してジオコード化】**をクリックします。

レイアウト テンプレート

【レイアウトテンプレート】は、プレゼンテーション用に配置された、マップ/ブラウザのプレースホルダーを含むユーザ定義のフォーマットです。MapInfo Pro の一部としてあらかじめ組み込まれたリストからテンプレートを選択したり、独自のテンプレートの作成や定義を行ったりできるほか、テンプレートへのコンテンツの埋め込みを自動化することもできます。**【レイアウトテンプレート】**は、マップやブラウザ、静的コンテンツ(テキスト、図形、画像など)と動的テキスト(日付、パスなど)といった他のウィンドウのコンテンツを埋め込む空の枠で構成されています。可搬性が高く、MapInfo Pro が動作するすべての環境で、あらゆる MapInfo 製品とともに利用できます。

【走行時間リージョン】 ツール

【走行時間リージョン】は、デフォルトで MapInfo Pro のインストール時に読み込まれるツールです。このツールは Envinsa 4.0 サーバを使用する古い**【走行時間リージョン (テーブル)】**ユーティリティの代わりとなります。このツールを使用すると、ドライブレージョンサーバにアクセスして、選択したテーブル エントリに対して時間ベースおよび距離ベースのバッファを作成することができます。MapInfo Pro は、以下に接続してそうした機能を実現します。

- Spectrum Spatial Server
- Pitney Bowes LI API

【走行時間リージョン】ツールは、**【ホーム】**タブの**【ツール】**グループにある**【ツールエクステンション】**ドロップダウン リストから読み込みまたは読み込み解除できます。

注: 古い**【走行時間リージョン (テーブル)】**ユーティリティを表示できるのは、**【走行時間リージョン】**ツールが読み込まれていない場合のみです。**【走行時間リージョン】**ツールは、読み込まれた後は古いバージョンに優先し、そのバージョンに代わって使用されます。

【ドライブレージョン】 コマンドへのアクセス方法

1. **【空間】**タブの**【作成】**グループにある**【リージョン】**リストで、**【ドライブレージョン】**をクリックします。

レイアウト スマート テキスト

レイアウト スマート テキストは、[レイアウト デザイン] ウィンドウでのテキスト枠の操作に関する機能強化です。以前は、[レイアウト デザイン] ウィンドウでテキスト枠に追加できるのは静的テキストのみでしたが、スマート テキストを使用すると、コンテキストに基づき変化する動的な値を埋め込むことができます。たとえば、レイアウトに現在の日付やレイアウトのページ番号を含めることができます。スマート テキストは MapBasic 式を用いてこの機能を提供します。

MapInfo Data Access Library

MapInfo Data Access Library (MDAL) は、MapInfo テーブルのほか Oracle、SQL Server、GeoPackage などのサポートされている形式のデータベースに対する作成、検索、更新を簡単に行うための MapInfo Pro アドインの作成機能を提供する、.NET 開発者向けのクラスとインターフェイスのセットです。このライブラリは MapInfo MapXtreme™ SDK の中の、データ アクセス機能を中心とした一部の機能をベースとして構成されています。MapInfo Data Access Library は現在、MapInfo Pro アドインでのみ使用できます。

- 機能豊富なデータ アクセス オブジェクト モデル – 綿密に設計された API を使用して MapInfo テーブルの作成、挿入、更新、削除、選択、複数のテーブルの結合を行うことができます。
- MySQL の完全なサポート – MapBasic 構文との違いに注意してください。
- 完全なジオメトリ オブジェクト モデル – テキスト オブジェクトを含むすべての MapInfo ジオメトリ タイプに対して、効率的に読み取り、作成、編集を行うことができます。また、Well Known Binary、Well Known Text、および GeoJson 形式との間の変換もサポートされています。
- 座標系の完全なサポート。
- スレッドセーフ – MapInfo Pro でのバックグラウンド タスクの作成やセカンダリ スレッドでの処理の実行に使用できます。
- MapInfo Pro の大部分のデータ形式がサポートされています。

注: すべてのデータ形式がサポートされているわけではありません。たとえば、PostGIS の空間データはサポートされていません。

- MapInfo および MapInfo 拡張テーブルでの MapInfo Pro 方式のトランザクション - MapInfo Pro 内で開いているテーブルの編集がバックグラウンド スレッドで行われ、エンド ユーザが変更をコミットするか元に戻すかを決定できます。
- ドキュメント – API リファレンス ガイド、ユーザ ガイド、MySQL リファレンス。

詳細については、MapBasicを開き、[ヘルプ]をクリックしてから[拡張性リファレンス]をクリックし、『**MapInfo Pro 拡張性リファレンス ガイド**』の「**MapInfo データ アクセス ライブラリ**」を参照してください。

レイアウト ウィンドウのミニ ツールバー

レイアウトウィンドウ上のミニツールバーを使用すると、よく使うアクションをすばやく操作できます。レイアウトウィンドウを右クリックして選択、移動、ズームイン/ズームアウト、整列と

いった多くのタスクを直接実行できます(これはウィンドウ内のどこをクリックするかによって、コンテキスト メニューの上側または下側に表示されます)。

レイアウトとマップのミニ ツールバーのカスタマイズ

レイアウトとマップのミニ ツールバーをカスタマイズして、ニーズやワークスタイルに合わせることができます。ツールバーでは、コマンドの追加と削除を行えます。

ツールバーをカスタマイズするには

1. リボン上を右クリックして **[クイック アクセス ツール バーのカスタマイズ]** を選択し、**[リボンのカスタマイズ]** ダイアログ ボックスを開きます。

このダイアログは、デスクトップの左上隅にある **[クイック アクセス ツール バーのカスタマイズ]** メニューで **[その他のコマンド]** を選択することによっても表示できます。

2. 左側のペインの **[マップ ツールバー]** または **[レイアウト ツールバー]** を反転表示させて、カスタマイズ可能な設定を表示します。
3. 左側のペインで、コマンドを反転表示させてから **[追加]** ボタンをクリックします。
4. カスタムなタブまたはグループからコマンドを削除するには、**[削除]** ボタンをクリックします。
5. タブやグループ内でコマンドの配置を整えるには、**[上]** や **[下]** の矢印を使います。タブの配置を、標準タブも含めて変えることができます。
6. **[OK]** をクリックして、変更を保存します。

ツールバーをカスタマイズして使いやすくすることもできます。これにより、カスタム設定ごとに異なるコマンドをツールバーで使えるようになります。

新しいカスタム設定を作成するには

1. 必要に応じてツールバーをカスタマイズします。
2. 名前を **[カスタム設定名]** テキスト ボックスに入力します。
3. **[カスタム設定名]** テキスト ボックスの上の **[+]** アイコンをクリックしてカスタム設定の追加と保存を行います。
4. カスタム設定の更新の保存、またはカスタム設定の削除を行うには、**[保存]** と **[削除]** アイコンをそれぞれ使用します。

マップ ウィンドウがアクティブである場合、ステータス バーにマップ ミニ ツールバーの名前が表示されます。これはデフォルトかカスタマイズしたミニ ツールバーのいずれかアクティブな方の名前です。

また、スペース キーを押してミニ ツールバーを切り替えることができます。これを押すと、次のミニ ツールバーに切り替わり、ステータス バーに表示される名前もこれを反映します。ミニ ツールバー名の文字またはその横にある矢印をクリックすると、使用可能なマップ ミニ ツールバーのメニューが表示され、現在のミニ ツールバーが強調表示されます。いずれかのミニ ツールバーの名前をクリックすると、そのミニ ツールバーが現在のミニ ツールバーになります。

リボンのカスタマイズ

MapInfo Pro のリボンは、要件や好みに合わせてカスタマイズが可能です。たとえば、カスタムなタブやグループを作成し、よく使用するコマンドを入れることができます。タブやグループのあいだでコマンドを入れ替えてもかまいません。リボンを最小化すれば、作業エリアが広がります。

Feature Manipulation Engine (FME) がバージョン 2018 にアップグレード

MapInfo Pro をインストールすると、Feature Manipulation Engine (FME) 2018 もインストールされます。FME ではデータを直接開くことができます。データを個別に変換して、データの .TAB 形式のコピーを操作する必要はありません。FME 2018 の新機能については、<http://www.safe.com/fme/new> を参照してください。

MapInfo Pro 内の FME では、以下のユニバーサル データ形式を開くことができます。

- Autodesk AutoCAD (*.DWG、*.DXF)
- Bentley MicroStation Design (V7) (*.FC1、*.DGN、*.POS)
- Bentley MicroStation Design (V8) (*.FC1、*.DGN、*.POS)
- ESRI ArcInfo Export (*.E00)
- ESRI Legacy ArcSDE
- ESRI Geodatabase (File Geodatabase API) (*.GDB)
- ESRI Geodatabase (Personal Geodatabase) (*.MDB)
- ESRI シェープファイル (*.SHZ、*.SHP)
- GML (Geography Markup Language) (*.GML、*.GZ、*.XML)
- Google KML (*.KML、*.KMZ)
- OS MasterMap Database
- OS VectorMap District
- OS VectorMap Local
- Spatial Data Transfer Standard (SDTS) (*.CATD、*.DDF)
- Vector Product Format (VPF) Coverage (*.FT)

注: MapInfo Pro とともに、限られた数の形式をサポートする FME のサブセットがインストールされます。その他の形式に対応する FME Suite 全体を Safe Software からインストールして、MapInfo Pro で使用することができます。詳細については、「FME Suite を使った作業」を参照してください。FME Suite でサポートされた形式の全一覧については、http://docs.safe.com/fme/html/FME_Desktop_Documentation/FME_ReadersWriters/Format-List-All.htm を参照してください。

これらの形式の詳細については、『MapInfo Pro インストール ガイド』の「**Feature Manipulation Engine (FME) 形式のサポート**」を参照してください。

FME にアクセスしてユニバーサルデータを MapInfo Pro で直接開くには、[HOME] タブ上の [ファイル] グループにある [開く] リストで、[ユニバーサル データ] をクリックします。詳細については、MapInfo Pro ヘルプの「ユニバーサル データの直接使用」を参照してください。

機能強化と更新

MapInfo Pro バージョン 17.0.3

コマンド エディタ ツールの更新 (「キーボード ショートカット」という名称に変更)

コマンド エディタ ツールが更新され、以下の点が変更されました。

1. このツールは、「キーボードショートカット」という名前になりました (MBX ファイル名は同じままです)。
2. このツールは自動的に読み込まれるようになりました。
3. 新しい [キーボード ショートカット] 項目が [システム] グループの [バックステージ オプション] タブに追加されました。
4. 新しいタブを使用して、シングル キー マップ ショートカットをカスタマイズすることができます。
5. 選択した項目上で F2 キーを押すと、ショートカットを編集できます。
6. [検索] で、メニュー項目のテキストも検索できるようになりました。
7. 列のヘッダーをクリックするだけで、リストを並べ替えられるようになりました。
8. 足りないレイアウト コマンドをカスタマイズできるようになりました。
9. [ヘルプ] ボタンがダイアログとツールに追加されました。

シングル キー マップ ショートカットのカスタマイズ機能

MapInfoPro.MNU ファイル内の ArrayOfMapInfoProKeyShortcut タグの下にエントリを作成/修正することにより、マップウィンドウ用のシングルキーショートカットをカスタマイズできるようになりました。カスタム エントリを作成するには、次の例を参照してください。

```
<!-- ArrayOfMapInfoProMapCommand section of the file contains the single
key shortcut for map window function.-->
<ArrayOfMapInfoProKeyShortcut
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <!-- MapInfoProCommand tag represents the overridden command
properties. Name attribute corresponds to a internal name of a MapInfo
Pro command and its value should never be modified by the user.-->
  <MapInfoProKeyShortcut Key="M" Control="false" Shift="true"
CommandId="840" WindowType="ViewWindow" Description="View entire map"/>

  <!-- Make your new entry here.-->
</ArrayOfMapInfoProKeyShortcut>
```

注: 現時点では、この機能はマップウィンドウに対してのみ有効です。以下に説明するコマンドエディタ ツール (キーボード ショートカットという名称に変更) を使用して、UI からマップのショートカットをカスタマイズできます。

新しい座標系と投影法

ユニバーサル極地平射図法カテゴリで使用する新しい極地平射図法エントリが追加されました。これらの座標系は、極での標準緯線または縮率に適用できます。2つのパラメータはリンクしており、一方のパラメータからもう一方を計算できます。正しい結果を得るため、MapInfo Pro は 70 度の標準緯線から計算された縮率を使用します。

http://earth-info.nga.mil/GandG/coordsys/polar_stereographic/polar_stereographic_computation.html

- "NSIDC 北極地海氷平射図法p3413", 20, 104, 7, -45, 90, 0.969858190326, 0, 0
- "NSIDC 北極地海氷平射図法p3412", 20, 104, 7, 0, -70, 0.969858190326, 0, 0

エストニアの座標系

EPSG コードが境界付きおよび境界なしのエストニアの座標系に追加されました。

"--- エストニアの座標系 ---"

- "L-EST97 1 mm tapsus (EUREF89)\p3301", 2003, 115, 7, 24, 57.51755393056, 58, 59.33333333, 500000, 6375000, -503054.52549999999, 5371945.4740000004, 1503054.5260000001, 7378054.52599999996"
- L-EST97 1 cm tapsus (EUREF89)\p3301", 2003, 115, 7, 24, 57.51755393056, 58, 59.33333333, 500000, 6375000, -9530545.2550000008, -3655545.2550000013, 10530545.260000002, 16405545.260000002"
- L-EST97 (EUREF89)\p3301", 3, 115, 7, 24, 57.51755393056, 58, 59.33333333, 500000, 6375000"
- L-EST 1992 (EUREF89)\p3300", 3, 115, 7, 24, 57.51755394, 58, 59.33333333, 500000, 6375000"

このバージョンには新しい測地系が追加されています。

- Geocentric Datum of Australia (GDA 2020 Datum) #1028

改良点の詳細な一覧については、MapInfo Pro ヘルプの「バージョン別の座標系の強化」を参照してください。

ジオコード ツールの機能強化

ポイントの作成

バージョン 17.0.3 から、[詳細オプション] の [ポイントの作成] オプションがデフォルトで選択されています。

プレミアム ジオコーディングの価格

プレミアム ジオコーディングの価格が改訂され、クエリあたり 1 クレジットかかるようになりました。最新の価格については、以下を参照してください。

<https://locate.pitneybowes.com/geocode>

ユーザが変更した設定ファイルのバックアップ

アップグレード後に初めて MapInfo Pro を起動したとき、変更されたファイルが以下の場所にある backup_yyyymmdd_hhmm (current date and time) フォルダにバックアップされます。

```
%LOCALAPPDATA%\MapInfo\MapInfo\Professional\version
```

MapInfo Pro のインストール中に、ポップアップウィンドウに以下のメッセージが表示されます。

```
Copying files and tools for first time use by this user.
```

バックアップされたファイルがある場合はタスクが作成され、**[タスク]** ウィンドウに表示されます。タスクには、Windows Explorer でバックアップ フォルダを開くためのコマンド ボタンがあります。**[ログの表示]** コマンドで、バックアップ フォルダの名前を表示できます。MapInfo Pro ステータス バーの通知バブルがタスクの完了を示します (この設定が無効になっている場合を除く)。タスク ウィンドウは情報提供専用なので、安全に閉じることができます。上級ユーザは、バックアップしたファイルを読み込んで MapInfo Pro で使用できます。

Drivetime リージョン ツールの変更

プレミアム Drivetime リージョンの価格

プレミアム Drivetime の価格が改訂され、クエリあたり 3 クレジットかかるようになりました。

MapInfo MapCAD の更新

MapCAD が新しいバージョン v1703 (18) になりました。

MapInfo MapCAD ツールは MapInfo Pro の起動時に登録され、自動で読み込まれます。MapCAD を読み込むには、**[ホーム]** タブの **[ツール エクステンション]** で **[登録済み]** タブをクリックし、起動するツールのリストにある **[MapCAD]** をダブルクリックします。

MapCAD のツールを MapInfo Pro と共に使用すると、土地開発や調査作業に適したマップを作成することができます。

MapInfo MapCAD は、MapCAD という名前のサブフォルダの下にインストールされるツールです。これらのコマンドを表示したくない場合は、MapCAD をオフにします。オフにするには、**[ホーム]** タブの **[ツール ウィンドウ]** グループで、**[ツール エクステンション]** をクリックします。**[実行中]** タブで MapCAD のツール名の横にある矢印をクリックすると、このツールを登録解除するオプションが表示されます。

このリリースでは、以下の新しい MapCAD ツールが利用できるようになりました。

1. ポイント (エッジにスナップ)
2. ライン (エッジにスナップ)
3. 折れ線 (エッジにスナップ)

4. ポリゴン / リージョン (エッジにスナップ)

これらのツールは、オブジェクトをマップに挿入する標準機能と似ています。これらはノードにスナップするだけでなく、エッジにもスナップできます。スナップモードをオンにする必要はありません。

5. オブジェクトの自動調整

オブジェクトの自動調整機能を使用して、選択したすべてのオブジェクトを同じレイヤまたは参照レイヤ内の隣接するオブジェクトに合わせることができます。選択したオブジェクトは、隣接するノードおよび参照オブジェクトのエッジに対して、ノード単位で照合されます。

以下の MapCAD ツールが変更されました。

1. 平行線の描画: ポリゴンの作成しやすさの向上

「左/右」のオプションがポリゴンの「内側/外側」に拡張されました。このタイプのオブジェクトではラインの方向がわかりにくいので、これによって平行線を簡単に描画できます。

詳細については、MapCAD のヘルプシステムを参照してください。開発元より、この製品を使用する際の手助けとなる完全なヘルプシステムが提供されています。このヘルプには、MapInfo MapCAD から、または MapInfo Pro のバックステージで、**[PRO]** タブで **[アドイン]** をクリックし、MapInfo MapCAD の下の **[ヘルプ]** をクリックすることによって、アクセスできます。サポートについては、MapCAD Incorporated に直接お問い合わせください。Web サイトは <http://www.geoas.de> をご参照ください。

ライセンス サーバユーティリティの更新

ライセンス サーバユーティリティが新しいバージョン 5.1 になりました。

旧バージョンのライセンス サーバユーティリティ (LSU) をインストールして配布可能ライセンスを管理している場合は、最新のバージョン 5.1 にライセンス サーバユーティリティをアップグレードする必要があります。以前のバージョンのライセンス サーバユーティリティを MapInfo Pro 17.0.3 とともに使用すると、MapInfo Pro が反応しなくなります。

MapInfo Pro バージョン 17.0.2

ジオコード ツールの機能強化

使いやすくするための機能強化が、ジオコード ツールに加えられました。

- 道路レベルの **PB Global Geocoder** が、デフォルトのジオコード サーバとして設定されます。この変更により、デフォルトで得られる結果の品質が向上します。
- PB Global ジオコード サーバがデフォルト サーバとして設定されている場合、ジオコード ツールの **[サーバ]** ボタンの横に PB Global Geocoder というテキストだけが表示されます。こうすることで、**[ジオコード レベル]** コントロールによる設定に基づいて正しいジオコード結果が生成されたことを確認しやすくなります。

MapInfo Pro の新しいスタイル設定

MapInfo Pro Viewer の追加により、MapInfo Pro の 2 つのモードを外観で区別できるようにすることが必要になりました。そのために、新しいスタイル設定が MapInfo Pro と MapInfo Pro Viewer に追加されました。

Viewer には穏やかなグレーのスタイルを使用し、MapInfo Pro には従来よりややカラフルなブルーのスタイルを使用します。

Pro を以前のスタイルで使用する場合は、"OverrideDefaultStyle" キーを "true" に変更します (このキーは MapInfo Pro インストール フォルダの styles\MapInfoProStyle.xml ファイル内にあります)。(MapInfo Pro Runtime についても同様)

注: このファイル内には、Pro と Viewer に行われたスタイル変更の詳細な説明も書き込まれています。

MapInfo Pro バージョン 17.0.1

新しい MapBasic ツール

64 ビット版の MapInfo Pro には以下の MapBasic が移植または追加されています。

1. [走行時間リージョン] ツール
2. ジオコード ツール
3. RDBMS の MBR 設定ツール
4. マップ ウィンドウ回転機能ツール
5. 分散機能ツール
6. ラベル移動ツール
7. ラベル回転ツール
8. シンボル作成機能 ツール
9. テーブル管理機能ツール
10. ウィンドウ マネージャ ツール

MapInfo MapCAD の更新

MapCAD は新しいバージョン 10.0 になりました。

MapInfo MapCAD ツールは MapInfo Pro の起動時に登録され、自動で読み込まれます。MapCAD を読み込むには、[ホーム] タブの [ツール エクステンション] で [登録済み] タブをクリックし、起動するツールのリストにある [MapCAD] をダブルクリックします。

MapCAD のツールを MapInfo Pro と共に使用すると、土地開発や調査作業に適したマップを作成することができます。今回の更新は、MapInfo Pro との互換性を持続させるためのもので、新しい機能はまったく含まれていません。

MapInfo MapCAD は、MapCAD という名前のサブフォルダの下にインストールされるツールです。これらのコマンドを表示したくない場合は、MapCAD をオフにします。オフにするには、

[ホーム] タブの **[ツール ウィンドウ]** グループで、**[ツール エクステンション]** をクリックします。
[実行中] タブで MapCAD のツール名の横にある矢印をクリックすると、このツールを登録解除するオプションが表示されます。

開発元より、この製品を使用する際の手助けとなる完全なヘルプシステムが提供されています。このヘルプには、MapInfo MapCAD から、または MapInfo Pro のバックステージで、**[PRO]** タブで **[アドイン]** をクリックし、MapInfo MapCAD の下の **[ヘルプ]** をクリックすることによって、アクセスできます。サポートについては、MapInfo MapCAD Incorporated に直接お問い合わせください。Web サイトは <http://www.geoas.de> をご参照ください。

ショートカット キー

Map

次のキーのマッピングが更新されました。

処理	キー	コメント
スナップ モードの切り替え	s	別のコマンドで大文字の S を使うために、小文字の s に変更されました。
十字形カーソルの変更	c	別のコマンドで大文字の C を使うために、小文字の c に変更されました。
自動ノードの切り替え	n	別のコマンドで大文字の N を使うために、小文字の n に変更されました。
トレースの切り替え	t	別のコマンドで大文字の T を使うために、小文字の t に変更されました。

次の新規キーのマッピングが追加されました。

処理	キー
選択レイヤからすべて選択	Ctrl+A
マップ全体を表示	M
[ビューの変更] ダイアログ	V
拡大ツール	Z

処理	キー
縮小ツール	Z
情報ツール	I
[マップ オプション] ダイアログ	O
移動ツール	P
選択ツール	S
ラベル ツール	L
[凡例の作成] ダイアログ	I
[主題図の作成] ダイアログ	T
すべて選択解除	U
次のカスタマイズされたミニ ツールバーに変更	スペース
ポイント挿入ツール	1
テキスト挿入ツール	2
ライン挿入ツール	3
折れ線挿入ツール	4
弧挿入ツール	5
ポリゴン挿入ツール	6
楕円挿入ツール	7
長方形挿入ツール	8
面取り長方形挿入ツール	9

レイアウトの整列の機能強化

スマート ガイドでは視覚的なマーク (オレンジ色の縦または横のガイド線) が表示され、アクティブなスマート ガイドにアイテムがスナップされます。アイテムは、ガイド線があるかのように近くのアイテムの端に合わせて自動的に整列 (スナップ) します。スマート ガイドにはアイテムの境界が表示されるため、アイテムの整列を目で確認できます。

マップ ミニ ツールバーのカスタマイズの拡張

マップ ウィンドウがアクティブである場合、ステータス バーにマップ ミニ ツールバーの名前が表示されます。これはデフォルトかカスタマイズしたミニ ツールバーのいずれかアクティブな方の名前です。

また、スペース キーを押してミニ ツールバーを切り替えることができます。これを押すと、次のミニ ツールバーに切り替わり、ステータス バーに表示される名前もこれを反映します。ミニ ツールバー名の文字またはその横にある矢印をクリックすると、使用可能なマップ ミニ ツールバーのメニューが表示され、現在のミニ ツールバーが強調表示されます。いずれかのミニ ツールバーの名前をクリックすると、そのミニ ツールバーが現在のミニ ツールバーになります。

MapInfo Pro バージョン 17.0.0

主題

レイヤ管理における個別値主題図のビン

個別値主題図アイテムが主題図レイヤの **[レイヤ管理]** でサポートされるようになりました。 **[レイヤ管理]** から個々のビンの可視性を制御できます。ビンの可視性はラベルにも反映されます。

[レイヤ管理] におけるサイズ可変シンボル主題図のサポート

[レイヤ管理] で、主題図レイヤに **[サイズ可変シンボル主題図]** を使用できるようになりました。

レイアウト

改良されたレイアウトでのスナップ

レイアウト ウィンドウでのグリッドおよびグリッドラインへのスナップ操作に、以下のような改良が加えられました。

- レイアウト ページでのグリッドの表示方法が変更されました。グリッドが実線ではなく点線を使用して描画されるようになり、外観がよりシンプルになります。グリッドは印刷結果や出力結果には表示されません。
- アイテムをマウスでドラッグしたときにスナップが実行されるようになりました。これにより、マウスから手を離れた後にアイテムが配置される位置を視覚的にすばやく確認できるようになります。アイテムをドラッグすると、アイテムの左上隅が最も近いグリッドの交差点にスナップされます。アイテムのいずれかの端をドラッグしてグリッドラインから数ピクセル以内の範囲に移動すると、そのグリッドラインに端がスナップされます。複数のアイテムを選択してドラッグする場合、マウス ポインタの位置にあるアイテムがスナップされ、残りのアイテムは対応する距離の位置に移動されます。

- マウスを使用してアイテムのサイズを変更するときにスナップが実行されるようになりました。アイテムのいずれかの端のサイズを変更すると、グリッドの最も近い水平または垂直ラインにその端がスナップされます。または、サイズ変更する端から数ピクセル以内にグリッドラインがある場合は、その最も近いグリッドラインにスナップされます。複数のアイテムを選択してドラッグする場合、マウス ポインタの位置にあるアイテムがスナップされ、残りのアイテムは対応する距離の位置に移動されます。
- アイテム間のスナップや整列をサポートするためのスマート ガイドが追加されました。**[レイアウト]** タブの **[整列]** メニューで、新しいメニュー項目の **[スマート ガイド]** が追加されました。**[スマート ガイド]** はデフォルトで有効になっています。**[スマート ガイド]** が有効な状態でマウスを使用してアイテムの移動またはサイズ変更を行う場合、移動するアイテムの端を、現在のページ上にある他のアイテムの端に揃えることができます。**[スマート ガイド]** を有効にすると、オレンジ色の縦または横の点線が表示されます。ページ上で近くに別のアイテムがあるアイテムをドラッグしてサイズを変更すると、その別のアイテムに揃えて配置するようにスナップが行われます。
- 回転アイテムをスナップする際の問題が修正され、MapInfo Pro で回転するアイテムの最小外接四角形 (MBR) に対してスナップが行われるようになりました。
- グリッドへのスナップが有効に設定され、フレームが現在のグリッドの増分に等しいピクセル数だけ移動する場合、このスナップ動作を一時的に上書きするには、**Ctrl** キーを押しながら矢印キーを押します。こうすると、フレームはキーを押すごとに 1 ピクセルずつ移動します。
- グリッドまたはグリッドラインへのスナップは、マウスまたはキーボードを使用してフレームを直接操作する場合にのみ有効です。

レイアウトの整列

[スマート ガイド] と、改善されたスナップを使用すると、オブジェクトを整列させたり、それらをまとめてすばやくスナップしたりすることができます。スマート ガイドには、オブジェクトをまとめて移動させるときに、それらをレイアウト上で同時にスナップできる機能があります。スマート ガイドを使用すると、移動中のアイテムの端を現在のレイアウトにある他のアイテムの端に揃えることができます。新規のレイアウト ウィンドウではこの機能がデフォルトで有効になっています。

レイアウト ウィンドウでスマート ガイドを有効にするには

1. **[レイアウト]** タブの **[編集]** グループにある **[整列]** リストから **[スマート ガイド]** を選択します。

このオプションを使用するときは、**[グリッドへのスナップ]** を無効にすることをお勧めします。

2. レイアウト 枠を 1 つ以上選択して (選択結果を示す枠の境界が表示されます) 新しい位置に移動させます。枠またはアイテムの端が、近くにあるその他すべての枠の端と揃うように配置されます。

スマート ガイドでは視覚的なガイド線 (オレンジ色の縦線または横線) が表示され、アクティブなスマート ガイドにアイテムがスナップされます。アイテムは、ガイド線があるかのように近くの

アイテムの端に合わせて自動的に整列 (スナップ) します。スマート ガイドにはアイテムの境界が表示されるため、アイテムの整列を目で確認できます。

マウスの左ボタンを使用して項目をドラッグまたはサイズ変更している最中に **Alt** キーを押下すると、[グリッドへのスナップ] とグリッドラインへのスナップの動作がすべて一時的に解除されます。**Alt** キーを離すと、こうした動作は再び有効になります。

ズームまたは移動

- ズーム ツールまたはマウスでズームインまたはズームアウトするとき、マウス位置を中心にズーム操作が行われるようになりました。
- **[レイアウトをウィンドウの大きさに合わせる]** オプションが**[レイアウト]** コンテキスト メニューに追加されました。これでレイアウト全体をすばやく表示できます。
- レイアウトを移動するにはマウスの中央のボタンを押下します。

用紙の余白

- レイアウト上で用紙の余白を確認し、どの部分が印刷不能か知ることができるようになりました。
- **[スマート ガイド]** を有効にすると、オブジェクトを用紙の余白にスナップできます。

フレームの非アクティブ化

- マップとブラウザをアクティブ化して、レイアウト内からライブ コンテンツを直接編集できるようになりました。
- **Alt** キーを押しながらクリックする、または、レイアウトのフレームの外をクリックすることにより、こうしたフレームを非アクティブ化できます。
- レイアウトの任意の場所をクリックすることで、フレームの非アクティブ化を無効にする新しい**[設定]**が追加されています。**[バックステージ]**で、**[ウィンドウ]** グループの**[レイアウト ウィンドウ]** をクリックして**[レイアウトの設定]** ダイアログを表示します。

ラスタ イメージの変更

32 bpp のラスタ イメージのサポート

MapInfo Pro では、ラスタ イメージのサポート範囲が拡大され、32 ビット/ピクセル (bpp) の画像を読み込み、ピクセルごとの透過性または透明性を維持できるようになりました。この処理は alpha-blending と呼ばれ、イメージ レイヤやマップの外観を向上させます。背景が透明なイメージを生成する **WMS** サーバおよび **WMTS** サーバでは、この処理による効果が特に顕著になります。以前は、イメージはその場で 24 bpp に変換されており、透明なピクセルが黒のピクセルとして表示される場合がありました。

ラスタの透明性の改善

ラスタの透明性のサポートが拡張され、イメージの背景の透過性が自動的に検出されるようになりました。ユーザは引き続き イメージで透過にする 1 つ以上の色を選択できます。これにより、

[ラスタ イメージスタイルの調整] ダイアログによる透明色の調整ができなくなるということではなく、ユーザは、透明にする色をイメージ レイヤで選択できます。

新しい MapBasic ツール

64 ビット版の MapInfo Pro には以下の MapBasic が移植または追加されています。

1. リング バッファ作成機能ツール
2. クイック検索ツール
3. レイアウト テンプレート ツール

レイアウトデザイナーでの [元に戻す]/[やり直し] 操作

レイアウト ウィンドウ内で [元に戻す] 操作と [やり直し] 操作が行えるようになりました。

Ctrl + Z を押すか、[ホーム] タブの [クリップボード] グループで [元に戻す] をクリックして、直前の操作を元へ戻します。

Ctrl + Y を押すか、[ホーム] タブの [クリップボード] グループで [やり直し] をクリックして、直前の操作をやり直します。

ポイントの作成の向上

[ポイントの作成] の操作が完了したら、[マップに追加] オプションを使用して、結果を新しいマップ ウィンドウで開くか、既存のマップ ウィンドウに追加します。これにより、[レイヤ管理] に移動してレイヤを追加するよりも時間を節約でき、手間もかかりません。次のオプションが利用できます。

- カレント マップ - 現在のマップ ウィンドウでテーブルを開きます。このオプションは、デフォルトで選択されています。
- 新規マップ - 新規マップ ウィンドウでテーブルを開きます。
- ビューなし - テーブルを表示せずに開きます ([エクスプローラ] ウィンドウの [テーブル] リストにテーブルが追加されます)。

データの編集 - 形状変更

[形状変更] ツールの使用中、別のレイヤにある何かをクリックしたり、誤って [形状変更] モードから離れた後、編集モードだったレイヤに戻っても [形状変更] モードは継続しています。[形状変更] モードは、その設定を無効にするまでレイヤで有効になっています。

テーブルの操作

フィールドを更新した後の検索結果

[フィールドの更新] コマンドを使用すると、セッションが続く間、[検索結果の参照] チェックボックスはその設定を記憶しています。

テーブルのコピーを保存した後にそのテーブルを開く

- **[名前を付けて保存]** ダイアログ ボックスで、保存したテーブルを開くオプションを利用できるようになりました。
- **[優先するビュー]** を選択することもできます。

浮動表示ウィンドウに追加された **[最上位]** プロパティ

浮動表示ウィンドウに追加された **[最上位]** プロパティは、ウィンドウを他の浮動表示ウィンドウ (および他のアプリも含め、最上位でないすべてのウィンドウ) よりも常に手前に表示します。このプロパティを使用できるのは、浮動表示されているタイトルバーを右クリックして表示されるコンテキスト メニューに **[ドッキング可能]**、**[タブ表示]**、**[自動的に隠す]** などのオプションがある場合です。このプロパティは次のウィンドウで使用できます。

- 情報 (デフォルトで選択され、開いたとき最上位となる)
- MoveMapTo
- 統計
- ルーラー

ショートカット キー

スナップ

- 矢印キーによるグリッドへのスナップ動作が変更されました。上向き矢印を使用しているときは、アイテム選択範囲の最小外接四角形 (MBR) の上端が選択範囲の上側にある最も近い水平グリッドラインにスナップします。右向き矢印を使用しているときは、アイテム選択範囲の MBR の右端が選択範囲の右側にある最も近い垂直グリッドラインにスナップします。
- マウスでアイテムをドラッグまたはサイズ変更しているときスナップ動作を一時的に無効にするには、**ALT** キーを押したままにします。
- 矢印キーでアイテムを移動しているときスナップ動作を一時的に無効にするには、**CTRL** キーを押したままにします。**CTRL** キーを押すと、選択されているアイテムがグリッドにスナップする代わりに 1 ピクセルだけグリッドの方へ移動します。

情報

[情報] ツールを使用するには、**Ctrl + Shift + I** を押します。

Map

マップ ウィンドウ内で **Esc** キーを押すと、現在選択されているツールが **[選択]** ツールに切り替わります。

[スタートアップの設定] と **[クイック スタート]** の変更

[クイック スタート] ダイアログのすべての機能が **[ようこそ] ウィンドウ** で利用できるようになりました。そのため、**[クイック スタート]** ダイアログは MapInfo Pro から削除されています。

この変更に伴い、[スタートアップの設定] ダイアログの内容が新しくなりました。[クイック スタート] の表示/非表示を設定するチェックボックスは、[ようこそ] ウィンドウの表示/非表示を設定するチェックボックスに置き換わりしました。

また、[ようこそ] ウィンドウを有効にした場合、MapInfoPro.wor ワークスペースは自動的に読み込まれず、MapInfoPro.wor ワークスペースのロードを有効にする [スタートアップの設定] 内のチェックボックスもオフになります。

[統計計算] コマンド

新しいコマンド Calculate Statistics が、Calculate グループの TABLE タブに追加されました。このコマンドを使用すると、テーブルまたは Query/Selection のフィールドに対して統計計算を実行できます。

改良された凡例見本

複数の変更によって、凡例見本が改良されています。これには、カスタム シンボル、長方形の塗りつぶしなど、さまざまな種類の見本が含まれます。画面での表示とともに、印刷またはエクスポートについても変更されました。

カスタム シンボルの凡例見本

CUSTSYMB ディレクトリにあるカスタム シンボルとして使用する多くのラスター イメージの描画方法が変わり、イメージの見栄えが改良されています。とくに、元のイメージより小さいサイズでイメージを描画するときこの改良点を実感できます。画面 ([レイアウト] または [凡例] ウィンドウ) での表示だけでなく、印刷またはエクスポートを行うときにもきれいに見えます。

印刷時に長方形の塗りつぶしの見本を囲む線を追加

以前は、塗りつぶしと線の凡例見本を含むレイアウトが不鮮明に印刷されることがよくありましたが、今回の改良でくっきりと印刷されるようになりました。

凡例見本が間違った色で印刷される問題を改善

以前は、凡例見本が正しい色で印刷されないことがありました。この原因は曲線化でした。曲線化が無効になったため、サンプルを鮮明かつ正しい色で印刷できるようになりました。

凡例フレームを含む PDF ファイルの Adobe Acrobat での表示

凡例フレームのあるレイアウトを PDF に印刷するときに、Acrobat の設定の調節が必要になることがあります。とくに、[背景色の表示] を有効にしてカスタム シンボルを使用するとき、または見本の塗りつぶしを使用する場合にこの調整が必要です。

凡例見本の縁にグレーの細い線が表示される場合、[イメージの平滑化] の無効化が必要になることがあります。これを行うには Acrobat で Edit > Preferences > Page Display > Rendering > Smooth Images (uncheck) に移動します。

レイアウト スケール バーの単位のカスタマイズ

レイアウト スケールバーに表示される単位名をカスタマイズできるようになりました。これは、レイアウトを作成して単位名を別の表記 (「kilometers」に対する「kilometres」など) で表示したい場合に役立ちます。

デフォルトの単位の命名規則は変更されていませんが、単位名を変更したい場合には、作成時にレイアウトスケールのプロパティのダイアログボックスで単位名を変更するか、既存のスケールバーに変更を加えることができます。

編集を開始するには、スケールバーのサンプルの下に表示される単位名をクリックするか、鉛筆のアイコンをクリックします。

注: カスタマイズした単位名を含むスケールバーは、MapInfo Pro の以前のバージョン (バージョン 16.0 以前) では開くことができません。

SHP ファイルと同じ場所にある TAB、MAP、および ID ファイルの並べ替え

SHP ファイルを MapInfo Pro で開くと、生成される TAB、MAP、および ID ファイルを入力 SHP ファイルと同じ場所に保存できます。これまでのバージョンでは、この場所は、デフォルトで環境設定で定義された SHP ファイルディレクトリでした (通常はユーザの **Documents** フォルダ)。現在は、この場所は入力 SHP ファイルと同じフォルダが自動的にデフォルトになります。

ただし、ロケーションサイドバーに新しいフォルダアイコンが追加され、それを使用して、環境設定で定義された SHP ファイルディレクトリを代わりに選択することができます。SHP ファイルがあるフォルダの場所が読み取り専用の場合は、別の場所を選択することを求めるエラーが表示されます。

タスク マネージャの設定の更新

[タスク マネージャの設定] ダイアログ ボックスに以下のオプションが追加されました。

1. バックグラウンド タスクが開始したときに自動的にタスク ウィンドウを表示するための新しいチェック ボックス。デフォルトでオンになります。
2. タスク ウィンドウで最近実行されたタスクを見つけやすくするオプションのタスク ID をタスク ウィンドウの一覧に表示するための新しいチェック ボックス。デフォルトでオンになります。

MapInfo Pro リボンの変更および更新

[テーブル]、[マップ]、および [空間] タブ

1. **[選択]** グループの **[SQL 検索]** ボタンが、**[SQL 検索]** と **[基本的な検索]** を含むスプリット ボタンに変更されました。
2. **[選択]** グループから、以前は **[検索]** ダイアログを開くのに使用した **[クイック起動]** ボタンが削除されました。
3. ショートカット **Ctrl+Shift+Q** を **[SQL 検索]** ダイアログのコマンドに割り当てました。
4. ショートカット **Ctrl+Shift+P** を **[基本的な検索]** ダイアログのコマンドに割り当てました。

[マップ] タブ

1. **[移動]** グループに、**[ビューの変更]** ダイアログを開くのに使用したクイック起動コントロールの代わりとなる、新しい **[ビューの変更]** を追加しました。
2. **[移動]** グループで、**[前回のビューを表示]**、**[指定した位置へジャンプ]**、および **[ビューの変更]** を小さなボタンのコントロールに変更しました。
3. **[ビューの変更]** ダイアログを開くためのショートカット **Shift+V** を追加しました。
4. **[コンテンツ]** グループの **[システム]** ドロップダウン ボタンをラージ ボタン コントロールに変更しました。
5. **[コンテンツ]** グループの **[指定した縮尺でズーム]** ドロップダウン ボタンをラージ ボタン コントロールに変更しました。

[ホーム] タブ

1. **[ファイル]** グループの **[ワークスペース]**、**[保存]**、および **[閉じる]** スプリット ボタンをラージ ボタン コントロールを使うように変更しました。
2. **[ファイル]** グループの **[名前を付けて保存]** ボタンは **[保存]** スプリット ボタンの下にありましたが、常に有効になるわけではない **[保存]** ボタンに代わってコントロール リストの一番上に表示されるように位置を変更しました。

クイック アクセス ツールバー

1. クイック アクセス ツールバーに **[テーブルの保存]** コマンドをデフォルトでオンにして追加しました。

新しい座標系と投影法

このバージョンには新しい測地系が追加されています。

- Geocentric Datum of Australia (GDA 2020 Datum) #1028

改良点の詳細な一覧については、MapInfo Pro ヘルプの「バージョン別の座標系の強化」を参照してください。

既知の問題

MapInfo Pro バージョン 17.0.3

北欧文字の問題

北欧文字を比較する際に MapInfo Pro を実行すると、文字列比較の結果が異なる可能性があります。たとえばロケールがデンマーク語、すなわち da-DK の場合、システムの現在のロケールについて次のように認識する必要があります。

1. コマンド行パラメータ /AppLocale=en-US を使用して MapInfoPro.exe を起動した場合、デンマーク語の Æ は A として表示され、文字列比較は期待どおりに機能しません。この問題を解

決するには、MapInfo Pro を da-DK ロケールで実行 (システム ユーザ ロケールを設定するか、/AppLocale=da-DK を使用) します。

2. **NATIVE** テーブルのみを使用してクエリを実行すると、インデックスが da-DK ロケールで作成されていない場合は、北欧言語の付加記号を含む文字列の選択が機能しない可能性があります。インデックスがデンマーク語 (DA-DK) ロケールで作成されていない場合、これらの付加記号 (PØSE など) は POSE と同じように扱われます。この問題を解決するには、MapInfo Pro を da-DK ロケールで実行 (システム ユーザ ロケールを設定するか、/AppLocale=da-DK を使用) し、すべてのインデックスを破棄して再作成します。すると、インデックスが正しいロケールで作成し直されるので、これらの文字は異なる文字として扱われ、選択が期待どおりに機能するようになります。この問題は、NATIVEX (MapInfo Extended Tab) 形式のテーブルでは発生しません。

MapInfo Marketplace の JavaScript エラー

MapInfo Pro 内から MapInfo Marketplace のプレビューを開くと、JavaScript エラーが発生することがあります。

回避策:

以下のレジストリ キーに新しい DWORD エントリを追加することで、この問題を解決できます。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Internet
Explorer\Main\FeatureControl\FEATURE_BROWSER_EMULATION
```

```
HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Internet
Explorer\Main\FeatureControl\FEATURE_BROWSER_EMULATION
```

以下の値データ 00002af8 で新しい DWORD エントリ MapInfoPro.exe を追加します。

ライセンス サーバの問題

永久借用可能ライセンスと期限付き借用可能ライセンスが同じライセンス サーバ上で正しく動作しません。

MapInfo Pro バージョン 17.0.1

カスタム投影法ファイルへの上書き

MapInfo Pro バージョン 17.0 (英語版) でカスタム投影法を追加するために mapinfow.prj ファイルを修正した場合、バージョン 17.0.2 をインストールすると、既存の mapinfow.prj ファイルが上書きされ、データが失われます。

回避策: MapInfo Pro バージョン 17.0.2 にアップグレードする前に、カスタム投影法ファイルをバックアップすることをお勧めします。

TAB がキーワードになり、定義名として使用できなくなった

シンボル **TAB** を使って定義を作成することができなくなりました。**TAB** は MapBasic 文のキーワードとして扱われるため、定義に **TAB** が含まれる **MBX** をコンパイルするとコンパイルエラーになります。

回避策: **TAB** を **TABe** として定義します。ただし、このタイプの定義がある既存のアプリケーションがコンパイルに失敗する可能性があります。

Spectrum Spatial Server のエラー

Spectrum Spatial Server をジオコードに使用するとき、ユーザ ID やパスワードの入力が要求されません。http://ssmipro-win16:8080/rest/GlobalGeocode をデフォルトに設定し、**[ジオコード サーバ情報]** ダイアログで **[OK]** をクリックすると、次のエラー メッセージが表示されます。

```
Error occurred at geocoding server: Could not find country information to geocode.
```

回避策: 検証は行われませんが、無作為な文字列をユーザ ID とパスワードとして入力します。

特定のカスタム インストールが正しく実行されない

MapInfo Pro は、%appdata% の場所にインストールされたファイルを削除しません。また、MapInfo Pro のアンインストール中またはカスタム インストール中に、**現行ユーザ**の下に作成されたレジストリ エントリも削除しません。

MapInfo Pro ツール ファイルがユーザの %appdata% の場所にコピーされるため、このツールが関係する特定のカスタム インストール シナリオは予期したとおりに機能しません。

ネイティブ以外の **TAB** ファイルに関する問題

ネイティブ以外の **TAB** ファイル (DBF/TAB など) を入力ファイルとして新しいジオコード ツールに使うと、**[マッチング オプションの高度設定]** の **[ポイントの作成]** オプションがデフォルトでオンになりません。また、**[ジオコード]** ダイアログの **[処理]** ボタンが無効になります。

回避策:

ジオコーディング結果をテーブルに書き出すには、ネイティブ **TAB** 形式のテーブルを必ず使用してください。CSV、DBF、XLSX などネイティブ以外のテーブルを既に開いている場合は、**[ホーム]** > **[保存]** > **[名前を付けて保存]** に移動して、コピーを自動的に開き、ネイティブ **TAB** 形式のコピーをジオコーディングするためのチェックボックスをオンにします。

ネイティブ以外の **TAB** 形式テーブルを開く場合は、ジオコーディング時に結果を書き出せるネイティブ テーブルを作成するため、ファイルを開く際に **[編集用コピーを MapInfo 形式で作成]** チェックボックスをオンにします。

Windows 10 バージョン 10.0.17134 でライセンスを返却できない

Windows 10 インストールをバージョン 10.0.17134 以降に更新した場合、MapInfo Pro ライセンスを返却できないことがあります。自動モードでライセンスを返却しようとする、次のエラーが表示されます。

```
Unable to successfully reach the server" and user will not be able to return license.
```

回避策: この問題が起きた場合は、電子メールでライセンスを移動する方法を使うことを推奨します。

MapInfo Pro バージョン 17.0.0**Location Intelligence サービスおよびプロキシ サーバの問題**

認証が必要なプロキシサーバ経由でインターネットに接続する環境では、ジオコードや Drivetime Polygons などの Pitney Bowes の Location Intelligence サービスに MapInfo Pro から接続できません。ログインしてこれらのサービスを使用する機能に既知の問題があります。ログイン時にエラーコード 407 (Proxy Authentication Required) が含まれるエラーが表示されたら、この問題が原因です。

注: 既に認証が済み、プロキシサーバを使用している状態 ([コントロールパネル]/[インターネット オプション] で設定) なら、既にインターネットに接続しているので、この問題は発生していません。現時点では、この問題に既知の回避策はありません。

NTv2 による GDA2020 測地系変換に対応

NTv2 変換は、測地系変換方法として使用できますが、デフォルトで **OFF** になっています。GDA2020 の 7 つのパラメータ測地 (Datum #1028) を使う場合も機能は同等ですが、NTv2 グリッドファイルを使用して GDA2020 を処理する場合は、MapInfo Pro プログラム ディレクトリにある NTv2.xml ファイルを編集すれば、NTv2 を有効にすることができます。

```
<install directory>\NTv2.xml
```

1. テキスト エディタまたは XML ファイル エディタでこのファイルを開き、次のタグがある場所を検索してすべて特定します。

```
<NTv2 Conversion for Australia>
```

2. 特定したすべての <Enabled> タグを **false** から **true** に変更してから、ファイルを保存します。
3. MapInfo Pro を起動します。オーストラリアの GDA94、AGD84、または GDA2020 の測地系テーブルに対して測地系変換が実行されるときに、前述の NTv2 グリッド シフト ファイルが使用されます。

Microsoft .NET Framework 4.6.1 のインストール エラーの修正

MapInfo Pro は .NET Framework 4.6.1 をインストールします。MapInfo Pro によるインストールが終了する前に、何らかの操作が必要になって .NET Framework がインストール保留状態になると、次のエラー メッセージが表示されます。

Microsoft .NET Framework 4.6.1 Full のインストールが失敗しました。セットアップを終了します。

この問題は、以下に示す 1 つ以上の要因によって発生する場合があります。いずれの場合もコンピュータの再起動が必要です。

- .NET Framework インストールに、コンピュータの再起動と MapInfo Pro インストールの再実行を必要とする更新プログラム (KB3102467 など) が含まれている可能性があります。
- Windows 8.1 および Server 2012 R2 で、Microsoft .NET Framework 4.6.1 に KB2919355 (2014 年 4 月) との依存関係があります。ダウンロードとインストールの操作によって KB2919355 をインストールするか、Windows Update を使用します。コンピュータを再起動した後、MapInfo Pro のインストールを再実行します。
- コンピュータの再起動を保留すると、.NET Framework 4.6.1 のインストールがブロックされます。コンピュータを再起動した後、MapInfo Pro のインストールを再実行します。

修正プログラム KB3154527/KB3154528/KB3154529 のインストール エラーの修正

MapInfo Pro は、修正プログラム KB3154527、KB3154528、および KB3154529 をインストールします。コンピュータで保留中の再起動によって修正プログラムのインストールがブロックされている場合、MapInfo Pro には以下に示すメッセージが表示されます。コンピュータを再起動した後、MapInfo Pro のインストールを再実行します。

Microsoft .NET Framework 4.6.1 の修正プログラムがインストールできていないようです。インストールを続けますか？

MapInfo Pro の起動に関する問題の修正

Microsoft Visual C++ 2015 更新プログラム 2 の再頒布可能パッケージをインストールすると、KB2999226 もインストールされます。KB2999226 がインストールされていない場合は、MapInfo Pro が起動時に予期せず終了する可能性があります。この問題を修正するには、Microsoft Visual C++ 2015 更新プログラム 2 をアンインストールし、コンピュータを再起動してから、Microsoft Visual C++ 2015 更新プログラム 2 の再頒布可能パッケージを再インストールします。

対策を行う前に、Windows 8.1 または Server 2012 R2 のユーザは、どの更新プログラムがインストールされていないかを確認するために次のセクションを一読されることをお勧めします。

Windows 8.1 および Server 2012 R2 での MapInfo Pro の起動に関する問題の修正

Windows 8.1 または Server 2012 R2 での MapInfo Pro の起動に支障がある場合は、以下の更新プログラムの 1 つ以上がインストールされていない可能性があります。

- KB2919355 (.NET Framework 4.6.1 のインストールに必要)
- KB2999266 (Visual C++ 2015 更新プログラム 2 とともにインストール)
- KB3012467 (.NET Framework 4.6.1 とともにインストール)

ご利用のマシンで更新プログラムの有無を確認するには、**【スタート】**メニューの**【コントロールパネル】**を選択します。**【コントロールパネル】**ウィンドウで、**【プログラムと機能】**、**【インストールされている更新プログラムの表示】**の順にクリックします。リストから更新プログラム (KB2919355 など) を探します。

更新プログラムがインストールされていない場合は、Windows Update を使用してインストールするか、<https://support.microsoft.com/en-us> でその更新プログラムを検索してダウンロードします。コンピュータを再起動した後、MapInfo Pro のインストールを再実行します。

拡張されたエクスプローラ ウィンドウの使用

エクスプローラ ウィンドウを拡張し、**【個別値による色分け】** および **【サイズ可変シンボル】** 主題図 bin のサポートをレイヤ リストに追加しました。これらの変更に伴い、独立したレイヤ ウィンドウのサポートを削除しました。レイヤの代わりにエクスプローラ ウィンドウを使用することを推奨します。このエクスプローラには、マップ (レイヤ) のほかに、開いているテーブル、ウィンドウ、および接続のリストが表示されます。レイヤのみを表示する場合は、**【Pro】 > 【オプション】 > 【エクスプローラ】** の順に選択して、他の項目を非表示にすることができます。

既知の問題の経過と対応状況

MapInfo Pro 17.0.3

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-84739	拡張レンダリングがオンの場合に縦書きフォント (フォント名が @ で始まるフォント) を使用してテキストの背景ボックスを描画すると、背景ボックスがテキストから 90 度のオフセットで描画されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-89875	カスタム ディレクトリに作成された統合マッピング サンプルが、サンプルの ReadMe.txt にリストされている DLL ファイルが MapInfo Pro のインストール ディレクトリを正しく指している場合でも、必要なファイルを MapInfo Pro のインストール ディレクトリから見つけれられません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-94617	Alter ButtonPad コマンドを使用する MapBasic ツールが実行されません。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-99631	GELink ツールの OS 番号の設定で、小数点にカンマを使用し、桁区切り記号にピリオドを使用している場合、GELink の出力が正しくなく、最終的に小数点の位置が間違っています。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-100063	MapBox で WMTS を使用するとエラーが発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-101822	複数のマップやレイアウトを含むワークスペースを使用していると、選択解除の高速再描画が遅くなります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-104218	GELink ツールを使用して TAB ファイルをエクスポートすると、正しくない KML ファイルが出力されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-104931	ラスタ レイヤを使用したマップの印刷後、[選択] > [検索] > [マーク] ボタンが無効になります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-105055	ラスタ レイヤを使用したマップ フレームがあるレイアウト デザインを PNG にエクスポートすると、予期せぬアンチエイリアシングが行われ、従来のレイアウト ウィンドウの 32 ビット版 MapInfo Pro よりも PNG ファイルサイズが大きくなります。マップ フレームでイメージの平滑化を行わなかった (または拡張レンダリングがオフになっている) 場合でも、この現象は発生します。 対応状況: 修正済み。[ウィンドウに名前を付けて保存] ダイアログで [アンチエイリアシングを使用] チェックボックスをオンにしない限り、アンチエイリアシングは出力イメージに適用されなくなりました。
MIPRO-106271	日本測地系の変換でひずみが発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-106981	カンマを区切り記号として使用すると、GELink ツールを使用した KML へのエクスポートでエラーが発生します。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-107030	GELink などのアドインの実行が以前のバージョンよりも著しく遅くなります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-107047	領域ブラウザでシンボルを変更すると、領域セルの内容が壊れます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-107496	[重複したノードの移動] 設定がオンで、編集可能レイヤが追加の選択可能レイヤとしてもマップに含まれている場合にノードを削除すると、余分なノードが削除されます。 対応状況: 修正済み。編集可能レイヤのノードのみが削除されます。
MIPRO-108505	MapBasic プログラムからラベルがあるマップとレイアウトをバッチ処理でエクスポートまたは印刷すると、ラベルが出力から断続的に欠落します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-108528	MapBasic プログラムからラベルがあるマップとレイアウトをバッチ処理でエクスポートまたは印刷すると、ラベルが出力から断続的に欠落します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-108614	64 ビット版の MapInfo Pro を使用して MapBasic から 32 ビット DLL を読み込もうとすると、32 ビット ライブラリではないので DLL を読み込めないというエラーが発生します。64 ビット ライブラリではないというエラーになるはずですが。 対応状況: 修正済み。 この問題は修正され、エラーは次のように表示されるようになりました。 <pre>Unable to load <DLL name> because it is not a 64-bit library.</pre>
MIPRO-108692	FME テーブルのみを使用し、[表示フィールドの指定] ダイアログ内でカスタム ブラウザフィールドを設定してから [デフォルトのブラウザビューで保存] を選択すると、TAB ファイルの内容を削除する際に MapInfo Pro が予期せず終了します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-108932	有効な X 値と Y 値を持つ新しいポイントをマレーシア BRSO GDM2000 測地系のテーブルに挿入すると、間違った場所にポイントが作成されます。

問題番号	説明と対応状況
	対応状況: 修正済み。
MIPRO-109456	アドインで ICommand を ToolButton に割り当てると、コマンドの CanExecute メソッドが実行されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-109478	統合 WinForms アプリケーションでエクスプローラを表示すると、致命的な例外が発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-109786	[カスタム シンボル] ダイアログで、32bpp イメージの [背景カラーの表示] が無効になる場合があります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-109789	WMTS で、API キーを持つレイヤを読み込むと、エラーが発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-110036	2 つの同一ポイントを持つ行を渡して ConnectObjects () 関数を呼び出すと (例: 長さゼロ)、MapInfo Pro が予期せず終了します。 対応状況: 修正済み。

MapInfo Pro 17.0.2

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-39674	[ビューの複製] コマンドを使用してマップをレイアウトに複製したときに、WOR に保持されていないレイヤが複製されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-75853	MapInfo Pro テーブルの Time フィールドを GPKG テーブルの Integer フィールドに変換すると、 GPKG テーブルの内容を Time フィールドとして使用することができなくなります。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-84012	マップがレイアウトに含まれる保存済みのワークスペースを読み込んでから閉じると、ワークスペースをいっさい変更しなかった場合でも、変更を保存するかどうか確認するメッセージが表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-89631	Google Earth ユーティリティ ツールを使ってマップ オブジェクトを KML にエクスポートすると、その KML を Google Earth で開いたときにオブジェクトが正しくない場所に作成されて表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-90521	テーブルからコピーされたオブジェクトが含まれるシステム レイヤで、[スナップ/軽量化] 機能を使用すると、エラーになります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-91553	[ワークスペースを開く] ダイアログで、デフォルトのファイル タイプは [ワークスペース (*.wor,*.mws)] です。テーブル ディレクトリ、リモート テーブル ディレクトリなど、MapInfo プレースのいずれかをクリックすると、これが [MapInfo (*.tab)] に変更されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96804	[ようこそ] ウィンドウからテーブルを開いてから、別のウィンドウを MapInfo Pro のインターフェイスから開くと、最後に使用したディレクトリが記憶されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-98242	[マップ] ミニ ツールバー を使って [フォント サイズ] の値を変更していると、MapInfo Pro が予期せず終了します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-100016	同時使用ライセンスが、2 時間後に自動的に解除されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-100090	クエリに対してクエリを実行すると、後のクエリがワークスペースに保存されないため、ワークスペースの凡例エラーが発生します。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-101295	レイアウト スケールバーのテキストのフォントが、テキスト フレームの同じサイズのフォントより小さく表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-102482	Alter ButtonPad コマンドを使用する MapBasic ツールが実行されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-102590	特定の状況で、ブラウザ ウィンドウで行を選択すると、MapInfo Pro が予期せず終了します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-102997	WMTS が原因で、MapInfo Pro が長時間フリーズし、タイルが表示されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-103177	特定の状況で 【検索】 コマンドを使用すると、MapInfo Pro が予期せず終了します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-103184	【コピー/貼り付け】 ツールまたは 【マップをドラッグ】 ツールを使用して MapInfo Pro の同じセッションに貼り付けまたはドロップしたときに、アドホック クエリ レイヤが複製されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-103186	Citrix 環境や、共有テーブルをネットワークから使用する場合に、オブジェクトをテーブルに挿入またはコミットするとそのオブジェクトが表示されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-103598	【データ併合】 ダイアログと 【データ分割】 ダイアログを表示しない操作が、ダイアログの 【データなし】 設定の保存値を変更します。 対応状況: 修正済み。

MapInfo Pro 17.0.1

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-101097	郵便番号でジオコードや住所検索を行うと、応答で返されるフィールドに値が埋め込まれないため、レコードがジオコードされません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-100358	.NET バージョン 4.7 がインストールされていると、ブラウザで編集集中のデータが失われます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-99941	エクスプローラ ウィンドウの 【レイヤ】 リストに表示される主題図 bin の 【その他すべて】 カテゴリが、bin に項目がない場合も表示されます。このカテゴリは、bin に項目があるかどうかで自動的に表示と非表示が切り替えられるようになります。 【その他すべて】 に項目があれば、このカテゴリはエクスプローラに表示されます。 【その他すべて】 に項目が1つもなければ、このカテゴリはエクスプローラに表示されません。それ以外の bin カテゴリは、項目の有無や、凡例に表示されているかどうかに関係なく、常に表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-99937	背景のないカスタム シンボルが、正しく描画されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-99774	レイアウト デザインでの WMS イメージの品質が低下します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-99688	MapBasic ツールを初めて読み込んだときに、メニューが 【レガシ】 タブに追加されます。ツールを閉じるとこのメニューは削除されますが、ツールを再び読み込むとそのメニューは 【レガシ】 タブに再び追加されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-99653	以前のバージョンから主題図テンプレートディレクトリにコピーしたカスタム主題図テンプレートが読み込まれません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-99338	RDBMS にアップロードされた <i>LargeInt</i> フィールドが、MapInfo Pro で開くと <i>Float</i> として扱われます。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-96181	MapInfo Easyloader が、空白の文字列を NULL に変換します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-94509	レイヤ グローバル上書きスタイルが積み上げスタイルを使用する場合に MapBasic を使用して 1つ以上のスタイルパスを削除すると、マップには正しい積み上げスタイルが表示されるのに、エクスプローラ内のレイヤから呼び出した [積み上げスタイル] ダイアログには削除したスタイルが表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-89896	ラスタ凡例のレンジ ラベルの編集集中にレンジ ラベルを変更して始点と終点の値が有効なレンジを表さなくなっても、ラベルには終点を指す文字列が表示され続けます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-84177	SQL Spatial DB のデータ型 <i>uniqueidentifier</i> が未サポートです。 対応状況: 修正済み。

MapInfo Pro 17.0

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-51961	マップに描画されたオブジェクトの向きが、拡大表示中に変わります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-55490	【ブラウザ】ウィンドウで、フィルタリングした列に対する【フィルタのクリア】コンテキストメニューが無効になっています。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-59789	【イメージの再投影】が有効なマップでズームインすると、ラスタ イメージとベクトル イメージが同期されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-63952	レイアウト デザイン ウィンドウに、削除できない余分な線が表示されます。 対応状況: 修正済み。テキスト フレームのデフォルト サイズが小さく修正されました。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-66119	ジオコーダを使用して大きなテーブルをジオコーディングすると、メモリリークが発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-68621	SHP ファイルが UTF 文字セットで作成されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-71386	【ブラウザ】 ウィンドウで、フィルタリングした列に対する 【フィルタのクリア】 コンテキスト メニューが無効になっています。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-74493	情報ツール ウィンドウを浮動表示にすると、浮動状態のマップ ウィンドウまたはブラウザ ウィンドウの陰になって見えなくなります。 対応状況: 修正済み。最前面ウィンドウに設定して、常に表示することが可能になりました。
MIPRO-75354	レイアウト内で有効になっているマップにスケールバーを追加した場合、 【スケールバーの削除】 を選択してもそのスケールバーを削除できません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-79274	Feature Manipulation Engine (FME) の操作中に、 【ブロックをエンティティに分割】 オプションをオフにして DWG を変換すると、入力が無効なことを示すエラーが表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-79932	MapCAD で MBX を使用した直交ポリゴンの作成が正しく行われません。 Ctrl キーを使用した場合に、直交する図形の作成でのみ問題が発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-84152	レンジ主題図 bin の可視性をオフにしたときも自動ラベルが引き続き表示されます。 MapInfo Pro の以前のバージョンでは、レンジ主題図 bin が 【レイヤ管理】 ウィンドウに表示されました。参照レイヤにおいて自動ラベルがオンに設定されているときに主題図 bin が表示されていなかった場合、その bin の表示設定がオフであり、参照レイヤが非表示である、またはその主題図の 【レイヤ スタイルを置換】 がオンに設定されていることから、非表示オブジェクトのラベルが依然として表示されます。 対応状況: 修正済み。マップ フィーチャが描画されない場合、その自動ラベルも描画されません。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-84527	凡例見本: PDF に印刷すると、凡例がマップに対応しない色になります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-87158	Oracle Spatial ビューに折れ線を挿入できません。 折れ線を Oracle ビューに挿入しようとする、以下のエラーが表示されます。 「Oracle エラー: ORA-32575: 明示的な列デフォルトがビューの変更に対してサポートされていません。操作はキャンセルされました。」 対応状況: 修正済み。
MIPRO-87647	ノードでの折れ線の分割操作を実行すると、MapInfo がクラッシュします。 基本テーブルよりフィールドの数が少ないクエリ テーブルから折れ線を選択した後で、この現象が発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-88188	マップ ウィンドウの状態を浮動ウィンドウからタブ ウィンドウ (またはその反対) に変更すると、[レイアウト スケールバー] ボタンが無効になります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-88282	Geopackage 形式で保存すると、アフィン投影法が失われます。 対応状況: 修正済み。アフィン座標系を使用するテーブルは、Geopackage 形式で保存できるようになりました。
MIPRO-88640	MapInfo Pro 16.0 の 64 ビット版でのテーブルの表示速度が、32 ビット版に比べて遅くなります。Windows 7 では数秒、Windows 8.1 および 10 ではさらに長い時間を要する場合があります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-88947	新たなワークスペースを開き、新規レイアウトを作成しようとする、MapInfo Pro が予期せず終了します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-88979	WMTS サーバの使用時、WMTS テーブル属性からタイル セットを変更すると、403 Forbidden エラーが発生します。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-89032	従来のレイアウトを含むワークスペース (WOR ファイル) からの面取り長方形の変換が正しく行われません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-89312	マップを浮動表示に設定するときは、 【浮動ルーラー ウィンドウ】 が最前面に位置する必要があります。 対応状況: 修正済み。前面ウィンドウに設定すれば、浮動ルーラー ウィンドウが最前面に表示されます。
MIPRO-90283	プロキシサーバ経由で接続しているときに、WMS および Envinsa ジオコードが機能しません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-90560	大文字と小文字の両方を使用する座標フィールド名を含む Oracle テーブルをマッピング可能にするとエラーが発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-91351	異なる地域設定を使用している場合に、MapInfo Pro に「レイアウト デザインのグリッド サイズはゼロより大きくなければなりません」というエラーが表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-91505	レンジの設定ウィンドウで、すべての桁が表示されるようにフィールドが調整されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-91584	Map File Application Language (MFAL) 16.0 以降を使用している場合に不適切なテキスト オブジェクトの値が返されます。MFAL が返すテキスト オブジェクトの文字列が正しく null 終端されていません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-91993	マップ フレームを削除すると 【レイアウト デザイン】 ウィンドウが突然閉じます。この問題は、MapBasic アプリケーション (MBX) を実行しているときにマップ フレームを追加した場合に発生します。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-92406	エクスプローラ ウィンドウを開いた状態で、Close All オプションを使用してテーブルを閉じた後で CTRL + ショートカット操作を行うと問題が起きます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-92506	LAYOUT タブの Edit グループ内の Pan ツールで、正しくないツールチップが表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-92648	カスタムのアドイン ツールバーのルーラ ツールで、[ルーラ] ウィンドウが正しく表示されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-93241	タイル サーバテーブルの読み込み中に、次のエラーが発生します。 Error parsing a Tile Server URL in WMTS Table.xml. Unable to open table Untitled. 対応状況: タイルをフェッチするための URL の書式が正しくありませんでした。これは修正済みです。
MIPRO-93544	リボン項目を大量に追加すると、MapInfo Pro が予期せず終了します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-93853	凡例見本: PDF で凡例シンボルの周囲にグレーの枠線が表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-93897	長音符号を含むデータを SQL Server 2012 へコミットする際、テーブルの更新後に長音符号が破棄されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-94038	Bing 道路および Bing ハイブリッドに基づくマップに特定の道路がありません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-94191	WHERE 句に二重引用符がない SQL クエリの実行中、MapInfo Pro が予期せず閉じます。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-94716	MapBasic コマンドの Create Text の使用中、(X2/Y2) 座標を指定しない場合に、テキストが省略されて表示されます。 対応状況: 「Create Text」文を従来のレイアウトに作成する場合に、動作がわずかに変更されました (バージョン 16.0.3 時点)。 従来のレイアウトが MBX または WOR で作成されている場合、レイアウトをレイアウト デザインへと変換すると、X2/Y2 パラメータは無視され、テキスト フレームは自動でサイズ調整されます。 レイアウト デザインが MBX または WOR で作成されている場合、レイアウト デザインでの作成時に、X2/Y2 パラメータが反映され、テキスト フレームはこれらの値に基づいてサイズ調整されます。バージョン 16.0.3 時点で、X2/Y2 パラメータはオプションであり、指定しない場合はレイアウト デザインでの作成時にテキスト フレームが自動でサイズ調整されます。
MIPRO-94719	ForegroundTaskSwitchHandler プロシージャが作動しません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-94767	MapInfo Pro へ接続するために、VBS または VBA スクリプトから CreateObject を使用すると、予期せぬ動作が生じます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-94817 MIPRO-95915	ファイル名にキリル文字を含む ECW 画像ファイルを開けません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-94990	カスタム リボン ツール ボタンを選択しても強調表示されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-95351	Polyline Split at Node 操作の実行時にエラーが発生します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-95558	新たなワークスペースを開き、新規レイアウトを作成すると、MapInfo Pro が予期せず閉じます。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-95752	Info ツールを使用して編集し、保存すると、DBMS テーブルに重複したレコードが作成されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-95791	ブラウザ ウィンドウでフィールドを並べ替えると、ブラウザのフォーカスが並べ替えたフィールドではなく、最も左側のフィールドに移動します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-95804	[環境設定] ウィンドウでリボンのタブ切り替えを [なし] に設定したのに、カスタム タブにこの設定が反映されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-95912	レイヤーの表示と bin をオフにしても、ラベルが表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96056	レイアウト ページのサムネイル ペインの表示と非表示を切り替えられません。 対応状況: 修正済み。 1 ページだけのレイアウトは、サムネイル ペインが折りたたまれた状態で開かれるようになりました。ページが複数あるレイアウトの場合は、サムネイル ペインが表示された状態で開かれます。サムネイル ペインのサイズが変わるほどグリッドの分割線をドラッグした場合を除き、レイアウトが 1 ページだけになったときはサムネイルが自動で非表示になり、レイアウトが 2 ページ以上になったときはサムネイルが自動で表示されます。サムネイル ペインのサイズが変わった場合 (完全に折りたたまれた場合を含め)、レイアウトはそれを考慮し、ページの追加や削除によるサムネイルの表示と非表示の切り替えを行わなくなります。
MIPRO-96057	マップをレイアウト上の空のフレームに追加すると、[レイアウト スケールバー] ボタンが無効になります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96101	[レイアウト デザイン] フレームで、Remove Content オプションを使用して削除したコンテンツを復元できません。 対応状況: 修正済み。 空のレイアウトフレームで行ったコンテンツの削除/追加について操作の取り消し/やり直しが可能になりました。操作を取り消せない場合は、確認のメッセージが表示されます。凡例フレームとカスタム フレームでは、コンテンツの削除または追加の取り消し/やり直しをサポートしません。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-96149	マップ オブジェクトに対応するレコードを削除し、Access テーブルを保存すると、マップ オブジェクトが失われます。Access テーブルを再び開くと、マップ オブジェクトは使用できません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96163	LayoutCommandID : 既存のコマンド ID が以前のリリースと異なります。 対応状況: 修正済み。レイアウト コマンドのコマンド ID は以前の値に戻されました。
MIPRO-96164	レイアウト フレーム内の凡例に適用される単色フィル パターンのサンプルが、きれいに印刷されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96182	Bing サーバが、特定のズーム レベルを下回った場合に、イメージなしを示すタイルを背景に表示する代わりにエラーを返します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96194	WFS 2.0.0 の使用時、DescribeFeatureType 要求に失敗します。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96202	アドインが MapInfo Pro に読み込まれた状態でワークスペースを開くと、時間がかかります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96203	レイヤを拡張すると、選択中のノードの色 (黄色) が変更されます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96378	[ホーム] タブで [Windows] グループの [レイアウト] ボタンをクリックしても、[レイアウト テンプレート] ギャラリーが開きません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96382	ツールが、ユーザの移動プロファイルの場所にインストールされます。 対応状況: 修正済み。ツールは、ユーザのローカルプロファイルの場所にインストールされるようになりました。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-96461	Fastedit が有効な状態でテーブルにレコードを挿入すると、時間がかかります。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96487	メニュー + キーボード ショートカットが作動しません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96593	主題図凡例ウィンドウにエクスポートできません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96628	MapInfo Pro Runtime バックステージで、古い【環境設定】ダイアログ ボックスですべてのボタンが使用できません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96664	情報ツールウィンドウのリスト表示モードで、フィールドのデータが31文字分しか表示されません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96900	テーブルが読み取り専用の場合、ブラウザから単一のセルをコピーできません。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-96973	エクスポート ウィンドウ内のレイアウトにあるスタンドアロンのウィンドウとマップ フレームの見分けが付きません。 対応状況: 修正済み。エクスポート ウィンドウ内で各マップ ノードにアイコンが表示されるようになり、レイアウトにあるマップ ウィンドウがスタンドアロンのウィンドウなのか、それともマップ フレームなのか区別できるようになりました。
MIPRO-98023	レイアウト デザインで、テキスト フレームを他のフレームから見て中央に位置するように配置するのが困難です。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-98091	レイアウト デザインで、拡大表示中に選択フレームを操作するのが困難です。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIPRO-98327	クイック アクセス ツールバーをカスタマイズすると、コマンドが失われます。 対応状況: 修正済み。
MIPRO-98361	クイック アクセス ツールバーで [すべてを閉じる] ボタンをクリックしても、データの変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されません。 対応状況: 修正済み。

MapInfo Pro Advanced

MapInfo Pro Advanced の新機能

このセクションでは、MapInfo Pro Advanced の重要な機能と機能強化について簡単に説明します。

MapInfo Pro Advanced バージョン 17.0.3

このリリースでは、既存のラスタ機能にいくつかの変更を加えました。概要は、[MapInfo Pro Advanced バージョン 17.0.3](#) (60ページ) をご覧ください。

MapInfo Pro Advanced バージョン 17.0.2

MapInfo 仮想ラスタ

MapInfo 仮想ラスタは、実行時にフィールドとバンドに他のラスタ ソースからデータを取得するラスタです。仮想ラスタは、ラスタの構造 (フィールド、バンド、プロパティ) を記録する XML ファイルで記述されます。この XML には、フィールドとバンドに埋め込むラスタ データの取得元になるラスタ ファイルも記録されます。

MapInfo 仮想ラスタは、物理的には存在しませんが、動作は本物のラスタ ファイルと似ています。物理ラスタ ファイルと同じ方法で扱えます。仮想ラスタには、次の利点があります。

- 仮想ラスタは、擬似モードと RGB モードのどちらでも表示できます。RGB モードでは、R、G、および B バンドを別々のラスタ ソースにマッピングできます。
- 仮想ラスタは、複数のファイルに分かれている大きなデータセットを管理するのに便利です。仮想ラスタの実体は、ラスタ フィールドとバンドの構造および入力データ ソースのマッピングが含まれる 1 つの XML ファイルです。ラスタ ソースは、要求に応じてデータを仮想ラスタ ドライバに提供します。

- ソースラスタのセルサイズ、ジオメトリ、または投影法に制約はありません。入力ラスタソースが複数のフィールドとバンドで構成される場合は、ソース ラスタの目的のフィールドとバンドのインデックスを指定する必要があります。
- 仮想ラスタ ドライバを使えば、実行中に複数の入力データ ソースを使用して目的のラスタを表示することができます。入力データ ソースを処理する必要はありません。ECW や JPEG2000 のようなラスタ ソースを使用する場合、仮想ラスタの利点はさらに大きくなります。というのも、イメージが圧縮されるラスタを処理すると、イメージの品質がさらに低下するからです。これは処理時間の節約にもつながります。

仮想ラスタの作成

以下の手順で仮想ラスタを作成します。

1. **[ラスタ]** タブの **[操作]** グループで **[ラスタの操作]** をクリックしてから、**[仮想ラスタ]**  アイコンをクリックして **[仮想ラスタ]** ダイアログ ボックスを開きます。
2. **[入力]** - 入力ラスタを **[入力ファイル]** ドロップダウン リストから選択するか、ファイルの格納場所に移動して入力ラスタを開きます。次にドロップダウンリストをクリックし、仮想ラスタに含めるラスタのチェック ボックスを選択します。
3. **[VRT 作成オプション]** - 出力ラスタのフィールドとバンドを指定します。フィールド/バンド名のボックスにそれぞれ新しい名前を入力することによって、フィールド/バンド名を編集できます。フィールドやバンドを削除して、出力構造を変更することができます。フィールドまたはバンドを削除するには、 ボタンをクリックします。ドロップダウンリストをクリックして、バンドを選択します。ドロップダウン リストには、入力ラスタ ファイルのバンドが表示されます。
4. XML 出力の相対パスを記録する必要がある場合は、**[相対パスを記録]** チェック ボックスを選択します。
5. **[出力]** - **[出力ファイル]** ボックスに、出力 XML ファイルに指定する名前を入力します。出力ファイルを保存するコンピュータ上の場所を参照します。

出力 XML

MapInfo 仮想ラスタ ツールが XML 出力ファイルを作成します。この XML ファイルにはコンポーネント ラスタに関するすべての情報が記録され、仮想ラスタ ドライバが XML に記述されたこの情報を読み取り、マップに表示します。

仮想ラスタの出力は、基本的には以下のようなものです。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<VirtualRaster>
  <Raster File="D:\Data\All\grc\SeattleLULC.grc" Name="RasterSource0" />
  <Raster File="D:\Data\All\Virtual Raster test\Classified\Classified.grc" Name="RasterSource1" />
  <Raster File="D:\Data\All\Virtual Raster test\grd\SeattleElevation.grd" Name="RasterSource2" />
  <RasterInfo>
    <FieldInfo Name="Field">
      <BandInfo Name="Band 1">
        <Raster Name="RasterSource0" Field="0" Band="0" PrimaryRaster="true" />
      </BandInfo>
      <BandInfo Name="Band 2">
        <Raster Name="RasterSource1" Field="0" Band="0" />
      </BandInfo>
      <BandInfo Name="Band 3">
        <Raster Name="RasterSource2" Field="0" Band="0" />
      </BandInfo>
    </FieldInfo>
  </RasterInfo>
</VirtualRaster>
```

デフォルトで絶対パスが出力 XML ファイルに記録されますが、相対パスを記録するように指定することもできます。

相対パスの場合、出力 XML ファイルは入力ラスタ ソース ファイルと同じフォルダに作成されます。

注: すべての入力ラスタ ソースと仮想ラスタ出力 XML ファイルを 1 つのディレクトリに格納することをお勧めします。

出力 XML ファイルの構造

出力 XML ファイルには、仮想ラスタのすべての入力ラスタ データ ソースが記述されています。ファイルパスの後に、ソースラスタごとに固有の別名が付けられます。この別名は、以下に示した 'RasterSource0'、'RasterSource1' などのように自動で生成されます。

```
<Raster File="D:\Data\All\grc\SeattleLULC.grc" Name="RasterSource0"/>
<Raster File="D:\Data\All\Classified\Classified.grc"
Name="RasterSource1"/>
<Raster File="D:\Data\All\grd\SeattleElevation.grd"
Name="RasterSource2"/>
```

- **RasterInfo** タグには、1 つの **FieldInfo** タグがあります。**FieldInfo** タグには、仮想ラスタのフィールド名を定義する 'Name' 属性があります。**FieldInfo** タグには、1 つ以上の **BandInfo** タグがあります。

```
<RasterInfo>
  <FieldInfo Name="Field">
    <BandInfo Name="Band 1">
      <Raster Name="RasterSource0" Field="0" Band="0" PrimaryRaster="true"/>
```

```

</BandInfo>
<BandInfo Name="Band 2">
  <Raster Name="RasterSource1" Field="0" Band="0"/>
</BandInfo>
</FieldInfo>
</RasterInfo>

```

- 各バンドは、1つの名前付きソース ラスタにマッピングされます。仮想バンドのためのソース ラスタから抽出するデータのフィールド インデックスとバンド インデックスを指定します。バンドに 'Name' で名前を付けることができます。バンドの1つをプライマリ ラスタとして設定できます。プライマリ ラスタバンドから参照されるラスタのプロパティは、座標系、ジオメトリ、セルサイズなどの仮想ラスタのプロパティを定義するのに使用されます。プライマリ ラスタの横には黄カラーの星が表示されます。

```

<BandInfo Name="Band 1">
  <Raster Name="RasterSource0" Field="0" Band="0" PrimaryRaster="true"/>
</BandInfo>
<BandInfo Name="Band 2">
  <Raster Name="RasterSource1" Field="0" Band="0"/>
</BandInfo>

```

MapInfo Pro Advanced バージョン 17.0.0

揃える - 特定のラスタのジオメトリを別のラスタに整合させる

MapInfo Pro Advanced の本リリースでは、特定のラスタを別のラスタにスナップして、両方のラスタのジオメトリが同じになるようにする [揃える] ツールが追加されています。

[ラスタ] タブの [操作] グループで [ラスタ操作] をクリック後、[揃える]  ボタンをクリックして、[揃える] ダイアログ ボックスを開きます。

ラスタを揃えるには、2つのラスタ ファイル、つまり入力ラスタとプライマリ ラスタが必要です。入力ファイルとは、揃える対象のラスタで、プライマリ ラスタとは参照用として使用するラスタです。2つのラスタの位置を揃えて、ラスタのジオメトリを別のラスタと照合します。

イメージのワープ - スキャンしたマップの地理参照

スキャンしたマップには空間参照の情報が含まれていません。MapInfo Pro Advanced では、[イメージのワープ] ツールを使用して、スキャンしたマップを地理参照できます。イメージのワープとは、イメージに変換処理を行うことにより、スキャンしたマップを地理参照するプロセスです。このツールは、画像の生データ、スキャンした古いイメージや地図を地理参照するのに使用できます。

[ラスタ] タブの [操作] グループで [ラスタの操作] をクリック後、[イメージのワープ]  ボタンをクリックして [イメージのワープ] ダイアログ ボックスを開きます。

イメージのワープは、地理上の同じ場所で異なる時間に取得された 2 つのイメージを登録するときも使用できます。

ポリゴン化 - ラスタをポリゴン フィーチャに変換する

今回のリリースで追加されたポリゴン化ツールは、ラスタを入力として受け取り、同じセル値を持つ隣接するセルを結合してベクトル フィーチャを形成し、MapInfo TAB ファイルに出力します。出力 TAB ファイルにはポリゴン情報が含まれます。

[ラスタ] タブの **[操作]** グループで **[ラスタ操作]** をクリックし、**[ポリゴン化]**  ボタンをクリックして **[ポリゴン化]** ダイアログ ボックスを開きます。

ポリゴン化ツールは、ラスタからポリゴンを作成するさまざまな方法を提供します。ポリゴンは、入力ラスタの各セルを **[同じ値のセル]**、**[有効/無効セル]**、**[ラスタ範囲]**、**[ユーザ定義]** などのプロパティに基づいて結合することで作成されます。

null のセルはすべて破棄されます。入力ラスタ内のセルが広範囲に散らばっている場合は、それぞれ独立したポリゴンが作成されます。

マップをラスタ イメージとしてエクスポートする

レンダリングしたラスタを特定のズーム レベルで画像として保存したいことがあります。**[イメージのエクスポート]** ツールを使用すると、作成したマップをイメージファイルとしてエクスポートできます。この画像ファイルは静止画像とはなりません。地理参照情報を含む画像になります。この画像を他のグラフィックス プログラムやプラットフォームで使用できます。

[ラスタ] タブの **[操作]** グループで **[ラスタの操作]** をクリック後、**[イメージのエクスポート]**  ボタンをクリックして **[イメージのエクスポート]** ダイアログ ボックスを開きます。次のプロパティを設定できます。

解像度比 - 出力画像の解像度を **[高]** または **[低]** で選択できます。

指定した形式に変換 - ラスタをイメージとして保存するときに、.tiff、.mrr、.bil、.bip、.bsq などの形式を一覧から選択できます。

MapInfo Pro Advanced の機能強化と更新

このセクションでは、既存のラスタ機能の強化についてまとめます。

MapInfo Pro Advanced バージョン 17.0.3

ワープ ツールの改良

地上基準点に基づくアフィン変換

アフィン変換は、変換、縮尺、回転、傾きを組み合わせた線形変換です。一般的に、アフィン変換は GIS で、座標系間でのマップの変換に使用されます。たとえば、この変換を使用して、ロー

カルなマイン グリッドなどの未知の座標系から UTM に合わせることができます。地上基準点を使用できるようにすることで、アフィン変換をワーブ用に改良しました。

このリリースでは、地上基準点に基づいてアフィン変換を実行する機能が追加されました。この機能追加によって、以下のどの方法でもアフィン変換を使用できるようになりました。

- MapInfo Pro の分析によって最小限のエラーで最適な変換タイプを導き出せる、3 つ以上の基準点を使用する
- 9 つの行列変換パラメータを指定して、アフィン変換の係数の定義に使用する
- 6 つのアフィン係数 (A ~ F) を直接指定する

MapInfo Virtual Raster (.mvr) 形式で出力を作成する機能

地理参照は、ラスタの各ピクセルを実世界の座標にマッピングするプロセスです。ピクセルと実世界の座標間の線形変換を手動で定義することによって実現されます。地上基準点 (GCP) は、ラスタ内のピクセルの位置と実世界の座標をリンクする座標のペアです。

これまでは、ワーブイメージツールで変換を適用して、MRR や GeoTIFF などの形式でラスタを作成していました。今回、MapInfo Virtual Raster (.mvr) 形式で出力を作成できるようにワーブツールが改良されました。MapInfo Virtual Raster にはすべての変換データが含まれており、通常の方法で MapInfo Pro に表示することができます。ワーブはウィンドウごとに適用され、実際に実行することなくワーブ操作をプレビューできます。このラスタは他の処理ツールで使用可能です。

このラスタを MapInfo Pro の外部で使用する場合は、GeoTIFF などの標準形式で出力できます。

仮想ラスタを作成する場合は、補間法を指定する必要があります。

- **最近隣内挿法** — 最も速い再サンプリング方法です。ピクセル値の変更を最小限に抑えます。最近隣内挿法は、土地被覆などの不連続データに適しています。
- **バイリニア (線形)** — 周囲を囲む 4 つのピクセルの値を (距離に重み付けして) 平均し、各ピクセルの値を計算します。この補間法は、連続データに使用します。
- **三次スプライン (ローカル、グローバル)** — 最も近い 4x4 の近隣を考慮し、周囲を囲む 16 の入力ピクセルに基づく滑らかな曲線を当てはめて、各ピクセルの値を計算します。三次スプラインは最も滑らかなイメージを作成しますが、ソース データの範囲外にある値を作成することができます。この補間法は連続データに適しています。
- **デフォルト** - データの再サンプリングに適用できる最適な補間法を適用します。

注意 - 仮想ラスタの場合、サポートされている出力形式は .xml と .mvr のみです。

ポイント参照の拡張

ポイント参照におけるマルチフィールドバンド ファイルのサポート

ポイント参照ツールを使用して、入力ベクトルポイントのグリッド値を持つ出力ベクトルファイルを作成できます。新規の TAB ファイルの作成、または入力 TAB ファイルの既存フィールドに対する更新を行うことができます。

マルチフィールドバンド ファイル内のポイント进行分析する際、ポイント参照ツールを使用して、マルチフィールドバンドの .mrr ファイル内にあるフィールドとバンドを選択できるようになりました。この機能によって、.mrr ファイルの分析をより細かく制御できます。

ヌルセルと非セルの値を指定することもできます。

他にもフィールドバンド マッピングのためにグリッドが改良されました。

ラスタの設定ダイアログ ボックスの機能強化

MapInfo Pro Advanced は、さまざまなラスタ形式をサポートします。ドライバにはネイティブドライバと GDAL ファイル形式ドライバの 2 つのカテゴリがあり、**[ラスタの設定]** ダイアログボックスの **[ラスタ形式]** タブに一覧表示されます。

- **ネイティブフォーマット** - この表には、MapInfo Pro Advanced のネイティブドライバで開くすべてのラスタ形式が一覧表示されます。
- **GDAL フォーマット** - この表には、MapInfo Pro Advanced の GDAL ドライバを使用して開くことができるすべてのラスタ形式が一覧表示されます。**[ネイティブフォーマット]** タブで、**[GDAL マルチフォーマット ドライバ]** の処理と表示を有効にしてください。

[ラスタの設定] ダイアログからドライバをロードまたはアンロードできます。

ネイティブフォーマット リストへの新規追加

[ネイティブ フォーマット] リストに次の追加が行われました。

表 2:

ネイティブ フォーマット リストへの追加	説明
MapInfo Virtual Raster (MVR)	このドライバは MapInfo Virtual Raster ファイル形式をサポートします。
MapInfo (バージョン 16) Multi-Resolution Raster (.mrr)	分類 Multi-Resolution Raster (MRR) ファイルを作成する場合、このドライバを使用します。このドライバは後方互換性をサポートします。つまり、このドライバを使用して作成された分類 MRR は、MapInfo Pro 16.0 以前のバージョンで開くことができます。

ネイティブ フォーマット リスト への追加	説明
	その他すべてのフィールド タイプ (連続、画像、画像パレット) の MRR は、MapInfo Multi-Resolution Raster (.mrr) ドライバを使用して作成することを推奨します。分類 MRR 以外は、MapInfo Pro 16.0 以前のバージョンと互換性があるからです。 そのため、分類 Multi-Resolution Raster (MRR) ファイルを開く必要がある場合は、MapInfo Multi-Resolution Raster (.mrr) ドライバの代わりに MapInfo (バージョン 16) Multi-Resolution Raster (.mrr) ドライバを使用してください。
GDAL (マルチフォーマット ドライバ)	GDAL ファイル形式のロードとアンロードを制御します。特定の GCAL 形式を [GDAL フォーマット] タブからロードまたはアンロードするには、常に [オン] にしてください。 このドライバが [ネイティブ フォーマット] タブでオフになっている場合は、[GDAL フォーマット] タブから GDAL 形式をロードすることができません。
Render Algorithm	今後リリースされる新しいレンダリングエンジンで使用する内部ドライバです。
MapInfo Point Storage (.mrrpnt)	補間法で使用する内部ファイル形式です。常に [オン] にしてください。

GDAL フォーマット

新しい GDAL 形式を追加するには

1. C:\Users\%USERNAME%\AppData\Roaming\MapInfo\Raster\400\ に移動します。400 はラスタのバージョンです。
2. 任意のテキスト エディタで MIRasterPreferences.xml を開きます。
3. GDAL Driver セクションに、新しい形式を定義する行を追加します。たとえば、.jp2 形式を追加するには、次のように行を追加します。

```
<format desc="JPEG2000 (.jp2)" ext="jp2" GDALCode="JP2ECW"
ProcessingEnabled="true" RenderEnabled="true"/>
```



4. XML ファイルを保存します。
5. MapInfo Pro アプリケーションを再起動します。
6. 任意の操作の実行を試みます。たとえば、**[再サンプル]** を選択します。新しく追加された形式 (.jp2) は、**[ファイルの種類]** ドロップダウン リストで選択してください。

ドライバの有効化または無効化

[ラスタの設定] ダイアログからラスタ形式ドライバを有効化または無効化できます。**[ラスタの設定]** ダイアログにアクセスするには

1. MapInfo Pro アプリケーション ウィンドウの左上隅にある **[PRO]** タブをクリックします。
2. **[オプション]** をクリックしてから **[環境設定]** をクリックすると、**[ラスタの設定]** ダイアログ ボックスが開きます。
3. **[ラスタ形式]** をクリックすると、サポートされているドライバの一覧が表示されます。

GIS では多くのイメージ形式が使用されています。MapInfo Pro Advanced で、新しいイメージ形式を表示および処理用に簡単に追加できます。**[ラスタの設定]** ダイアログ ボックスの **[ネイティブ形式]** タブから、処理および表示に対応するチェック ボックスをオンにして、ドライバをロードします。ドライバをアンロードするには、両方のチェック ボックスをオフにします。

処理の有効化 - オンにすると、ラスタに対する分析または処理を実行できます。

表示の有効化 - オンにすると、マップ ウィンドウにラスタを表示できますが、ラスタに対する分析または処理は実行できません。

[ラスタの設定] ダイアログで変更を行ったら、MapInfo Pro アプリケーションを再起動して変更を有効にする必要があります。

ランダム アクセス ブロック イテレータ API の更新

API の更新

bUnloadTiles フラグを GetBlock() API に追加して、ランダム アクセス ブロック イテレータを改良しました。ブロック イテレータを使用してラスタの読み込みを行う際に、このパラメータで現在のブロック アクセス後にタイルをアンロードするかどうかを制御します。このフラグを true にすると、現在のブロック アクセス完了後にメモリが解放されますが、キャッシュされているデータが解放されるので、パフォーマンスが低下する可能性があります。

デフォルトでは、bUnloadTiles は false です。

アップグレード時のラスタ設定の保持

ラスタ アプリケーション データ (appdata) ファイルは、MapInfo Pro がアップグレードの際に使用する設定ファイルです。これらのファイルは

C:\Users\<Username>\AppData\Roaming\MapInfo\Raster\400 にあります (400 はバージョン番号です)。

1. MIRasterPreferences.xml - Raster SDK 用
2. MapInfoRasterUIPreferences.xml - ラスタ ユーザ インターフェイス用

デフォルトでは、MapInfo Pro インストーラがアップグレードの際にユーザの設定を保持し、既に存在する場合は設定ファイルの上書きをスキップします。そのため、アップグレードの際に、最新バージョンで導入された設定が失われる可能性があります。最新の設定ファイルをインストー

ルする場合は、アップグレード前に既存の設定ファイルの名前を変更または移動して、インストーラが最新の設定ファイルをコピーできるようにしてください。

重要-MapInfo Pro をアップグレードする場合、アップグレードプロセスによってアプリケーション データ フォルダ内の既存の `MIRasterPreferences.xml` ファイルは置き換えまたは更新されません。これは、古い設定を失わないようにするための、意図的なものです。最新の設定をインストールし、古い設定も保持する場合は、既存の `MIRasterPreferences.xml` ファイルの名前を変更または移動して、設定を保持してください。そうすると、インストーラが最新の設定ファイルをアプリケーション データ フォルダ内に配置できます。アップグレード後に新しい `MIRasterPreferences.xml` ファイルを編集して、設定と保存したファイルをマッピングできます。

たとえば、MapInfo Virtual Raster は、MapInfo 17.0.2 リリースで導入されました。そのため、MapInfo Pro バージョン 17.0.2 を新規インストールする場合、インストーラは最新の `MIRasterPreferences.xml` ファイルをアプリケーション データ フォルダ内に配置して、新しいファイル形式にアクセスできるようにします。この XML ファイルには、仮想ラスタ用の設定が含まれています。17.0.2 より前のバージョンには、仮想ラスタ (.vrt) 形式のサポートはありません。

MapInfo Pro Advanced バージョン 17.0.0

ラスタの作成ツールの機能強化 (グリッド化)

補間する入力データのグループ化

補間する入力データのフィルタに加え、グループ化が可能になりました。この機能は、大きなデータセットのうち、選択したデータにのみラスタ化を実行したい場合に便利です。

今回のリリースでは、属性フィールドを使用して入力データをフィルタまたはグループ化する機能が追加されました。この機能では、入力フィールドをグループ化変数として使用することにより、1つの入力ラスタから複数の出力ラスタを作成できます。使用できるデータ型は、数値とテキストです。LIDAR データセットでは、標高、強度、ポイント分類などの特定のクラスに属するデータをラスタ化できます。

補間方法での平滑化のサポート

ラスタ化したデータに平滑化を適用し、より滑らかなサーフェスを作成できるようになりました。平滑化は、画像をさらに鮮明にしたり、エッジの外観を良くしたりするためにも使用されます。実際のデータに即して適切な平滑化の方法とレベルを選択してください。

出力ラスタの平滑化レベルを設定するには、平滑化スライダを移動します。0 ～ 6 の範囲の値を設定できます。値 0 のとき平滑化は適用されません。値 6 のとき最大の平滑化が適用されます。

最小曲率法のスプライン テンションの指定

スプラインに適用するテンション (張力) を 0 ～ 1 の範囲の値で指定できるようになりました。デフォルト値は 0 です。この値が小さければ小さいほど全体的な曲率が小さくなり、より滑らかなサーフェスが得られます。ただし、データが存在しないリージョンや補間法が制約されていない

リージョンでアンダーシュート (立ち下がりの突出した乱れ) やオーバーシュート (立ち上がりの突出した乱れ) が生じる可能性があります。この値が大きければ大きいほどサーフェスは滑らかでなくなります。アンダーシュートやオーバーシュートの量は減少傾向になります。地形データや海底データをラスタ化するときは、スプラインテンションを控えめな値 (0.25) に設定するとよいでしょう。

補間法におけるポリゴン クリップのサポート

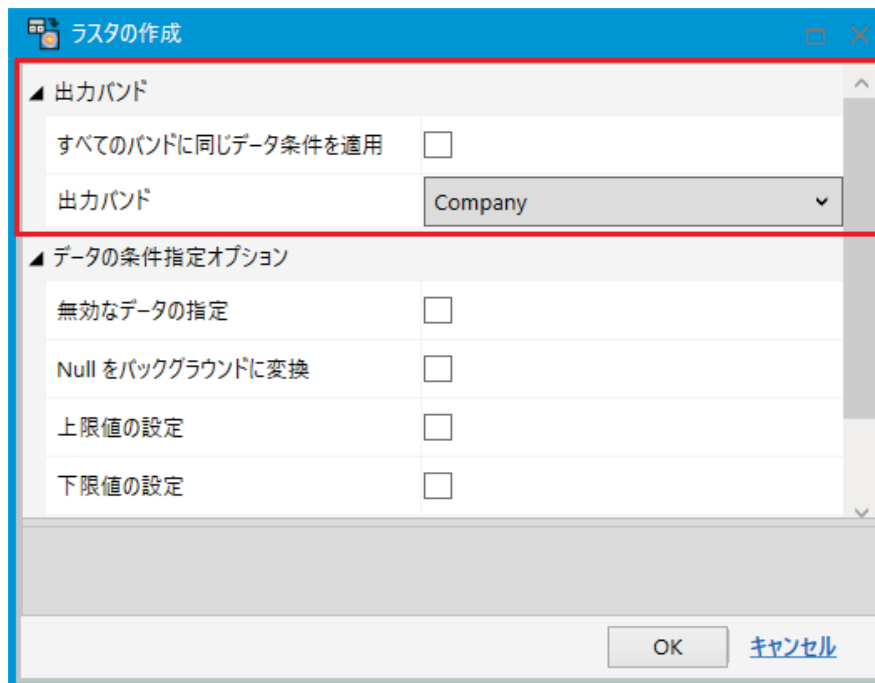
ポリゴン クリップのサポートにより、出力ラスタの最終的な外観や形状をよりきめ細かく制御できるようになります。

- ポリゴン - ポリゴン TAB ファイルを使用して、出力ラスタをポリゴンの境界に合わせてクリップします。ラスタの境界で区切られた範囲の内側と外側のどちらのリージョンをクリップするかを指定できます。ただし、開口部のあるポリゴンはサポートされません。

バンドに基づくデータの条件指定

バンドごとに入力データの条件指定を制御する機能が追加されました。バンドに基づくデータの条件指定を適用するには、**【ラスタの作成】** ダイアログの  ボタンをクリックします。

データの条件指定をすべてのバンドに対して適用するか、選択したバンドに対して個別に適用するかを選択できます。



座標 (空間) によるデータの条件指定

入力データに対して空間に基づくデータの条件指定を実行する機能が追加されました。マップに描画した長方形またはポリゴンに基づいてデータをフィルタできます。これにより、選択したデータにのみラスタ化が実行されます。

既存のラスタ ツールの強化

ラスタ操作	説明
変換 	出力ラスタに詳細なプロパティを設定する ラスタデータセットの変換時には出力ラスタに、ラスタ名、フィールド名、バンド名、バンドのデータ単位、バンドのデータ型などの詳細なプロパティを設定できます。
組み込み 	プライマリ ラスタの編集 マージの操作で、複数のラスタのデータをプライマリ ラスタにスタンプできるようになりました。[プライマリ ラスタの編集] チェックボックスが追加されたことにより、出力ラスタ ファイルを作成しないで、データを1つ以上のラスタからプライマリ ラスタにスタンプできるようになっています。これは、既存のラスタ ファイルの編集または更新を行う場合に便利です。
オブジェクト マージ 	入力ラスタのマージにおける制限を緩和 MapInfo Pro Advanced では、入力ラスタ ファイルの投影法、原点、セルサイズが異なっても、そうしたラスタをマージすることができるようになりました。以前のマージ操作では、ラスタの原点、セル サイズ、投影法が同じである必要がありました。
分類 	分類済みラスタの、クラス間隔の保存/読み込みに対するサポートを追加 分類済みラスタを数値ラスタまたは分類済みラスタに再分類するときに、[読み込み] と [名前を付けて保存] ボタンを使用して、.class テキスト ファイルにクラス間隔/マッピングを読み込んだり作成したりできます。また、Vertical Mapper の .pfr ファイルを MapInfo Pro Advanced に読み込むこともできます。
可視領域 	複雑な計算のサポート 可視領域ツールに [複雑な計算を使用] チェックボックスが追加されました。MapInfo Pro Advanced は、視点 (ソース) から対象のポイントが見えるように高さを調整するための値を計算します。
ラスタ化 	指定した境界でのラスタ化

ラスタ操作	説明
	[ラスタ化] ダイアログ ボックスで [出力ジオメトリ] をクリックすると、指定したリージョン (境界) に従って出力データ ポイントを制限し、そのリージョンの外部にあるすべてのポイントが無視することができます。指定した境界内のデータのみが出力ファイルに書き込まれます。
ポイント イン スペクション 	入力 TAB ファイルの編集/更新へのサポートを追加 [ポイント参照] ダイアログでは、新規の TAB ファイルの作成、または入力 TAB ファイルの既存フィールドに対する更新のいずれかを行えます。ヌルセルと非セルの値を指定することもできます。 また、出力 TAB フィールドで、互換性のあるデータ型のサポートを強化しました。出力 TAB フィールドでは、入力ラスタバンドのデータ型に従って、互換性のあるデータ型の作成と更新が行われるようになりました。
セル値 	セル情報のナビゲーション コントロール [近隣のセル] タブにナビゲーションコントロールが追加されました。[セル値] ダイアログでは、マップをクリックしなくても、選択したセルの周りにあるセルの値を検査できます。セル マトリックスの周りでナビゲーション ボタンをクリックして、近隣のセルの値を確認できるようになりました。 [完全] モードで [セル値] ツールを開きます。マップをクリックし、[セル値] ウィンドウが開いたら、[オプション]、[近隣のセル] タブの順にクリックします。

バッチ モード処理

ラスタ処理の操作の一部を、自動化したバッチ処理により実行できます。操作をバッチ モードで実行すると、複数の入力を一連の同じ入力パラメータによって一度に処理できます。バッチ モードは、入力設定が共通する複数のファイルを処理するのにとても便利です。たとえば、特定の投影法に多数のラスタ ファイルを再投影する。

注: 入力ラスタのプロパティ (フィールド タイプ、座標系、ジオメトリなど) が同じである必要があります。

次のラスタ ツールはバッチ モード処理をサポートしています。

- 変換
- 再サンプル
- 再投影

現在、[変換]、[再サンプル]、[再投影] によって複数のファイルを処理する場合、各ファイルを 1 つずつ操作し、個別に実行する必要があります。バッチ モードでは、多数のファイルをまとめて選択して、操作を一度に実行できます。

マルチスレッド

ご利用のコンピュータが複数の CPU またはコアを搭載している場合、マルチコア プロセッサの性能をバッチ処理の機能に活かし、複数のファイルを同時に実行できます。これは、**[ラスタの設定]** ダイアログで **[処理と分析]** タブの **[バッチ モードでタスクを並列実行]** オプションを選択することにより設定できます。

出力ファイル名の拡張

バッチ モードの出力ファイル名は自動生成されますが、ユーザは、出力ファイルの接頭辞と接尾辞を選択できます。デフォルトの出力ファイル名は、入力ファイル名と同じです。出力ファイルディレクトリの選択と、ファイル拡張子の指定も行えます。

ログの要約

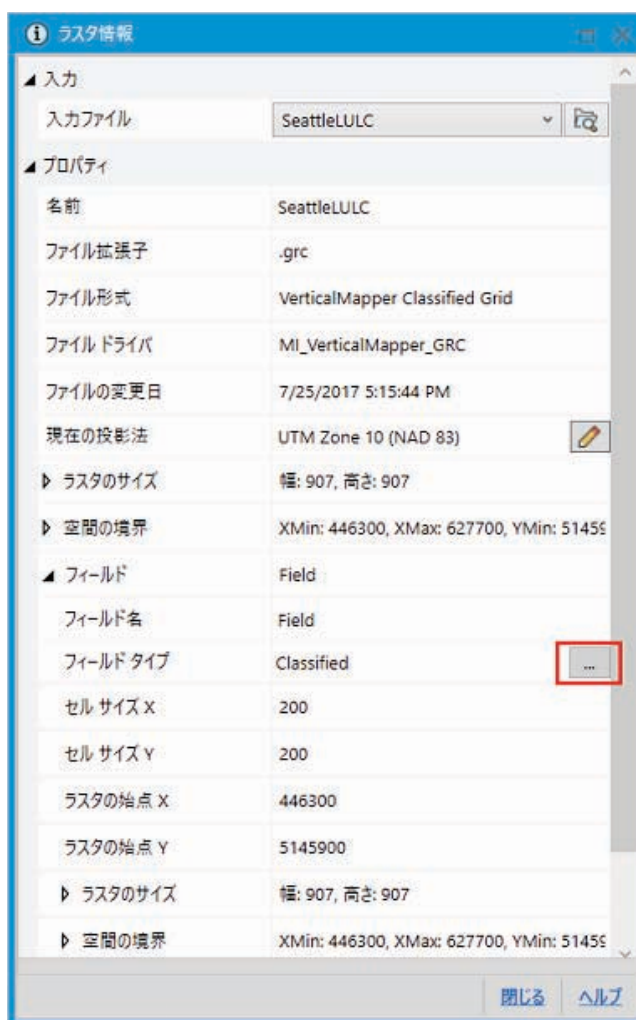
処理されたタスクの要約を表示できます。

[ラスタ情報] ツールの改善点

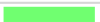
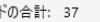
[ラスタ情報] ツールが、より使いやすくなりました。**[ラスタ情報]** ツールを使用して、分類ラスタまたはイメージパレットラスタに含まれる分類テーブルの内容を表示できるようになりました。

ラスタ データセットに関する追加情報を表示するには

1. マップウィンドウで分類ラスタまたはイメージパレットラスタを開きます。 ボタンをクリックして、参照による方法で分類ラスタまたはイメージパレットラスタを選択することができます。
2. **[ラスタ]** タブの **[プロパティ]** グループにある **[ラスタ情報]** をクリックして、ラスタ情報ウィンドウを表示します。
[ラスタ情報] ダイアログボックスには、以下の図のように、入力ラスタ データセットに関する情報が表示されます。



3. 楕円形のボタンをクリックして分類テーブルの内容を表示します。
[分類テーブルの内容] ダイアログ ボックスが表示されます。例:

分類済みテーブル コンテンツ							
テーブルの内容				テーブル構造			
RGB	Value	Data1	Red	Green	Blue	Data2	Label
	11	0	255	216	176	0	Urban or Built-up Land/Residential
	12	0	255	196	176	0	Urban or Built-up Land/Commercial
	13	0	192	0	0	0	Urban or Built-up Land/Industrial
	14	0	255	160	128	0	Urban or Built-up Land/Transportation
	15	0	255	0	0	0	Urban or Built-up Land/Industrial and
	16	0	255	128	128	0	Urban or Built-up Land/Mixed Urban
	17	0	255	208	208	0	Urban or Built-up Land/Other Urban
	21	0	0	128	64	0	Agricultural Land/Cropland and Pasture
	22	0	0	208	104	0	Agricultural Land/Orchards, Groves, etc.
	23	0	80	255	168	0	Agricultural Land/Confined Feeding
	24	0	112	255	112	0	Agricultural Land/Other Agricultural
	31	0	80	40	0	0	Rangeland/Herbaceous Rangeland
	32	0	160	80	0	0	Rangeland/Shrub and Brush Rangeland
	33	0	192	144	0	0	Rangeland/Mixed Rangeland
	41	0	0	80	0	0	Forest Land/Deciduous Forest Land
	42	0	77	128	0	0	Forest Land/Evergreen Forest Land
	43	0	192	144	0	0	Forest Land/Mixed Forest Land
	51	0	0	240	240	0	Water/Streams and Canals

レコードの合計: 37

アルファ チャンネルのサポート

アルファ チャンネルのサポート

MapInfo Pro Advanced でアルファ チャンネルの透過性を含む画像を使用できるようになりました。アルファ チャンネルとは、そこを透過して画像を表示できるマスクです。アルファ チャンネルは 8 ビットのチャンネルです。つまり、0 (黒) ~ 255 (白) の 256 段階のグレースケールを持ちます。生成される画像を RGBA と呼びます (RGB+A で、A がアルファ チャンネルを意味する)。

サポートされているすべての画像ファイルでアルファ チャンネルを使用したレンダリングが可能になります。

ラスタ データのアルファ チャンネルのレンダリングは、**[ラスタの設定]** ダイアログ ボックスの **[表示]** タブで制御できます。MapInfo Pro Advanced では、アルファ チャンネルのレンダリングがデフォルトで有効になっています。

ヒストグラム データの ASCII ファイルへのエクスポート

MapInfo Pro Advanced では、ヒストグラム データを CSV 形式で ASCII ファイルにエクスポートできるようになりました。**[統計]** ダイアログ ボックスから統計情報を CSV 形式にエクスポートできます。

1. 統計を表示または計算する入力ラスタを選択します。

注: 使用できる統計がないファイルを開いた場合、**[統計計算]** ボタンが有効化され、統計を計算するよう求められます。

2. ラスタ統計の計算に使用するモードを 1 つ選択します。
3. **[統計計算]** をクリックして統計を計算します。

4. 下方向にスクロールし、[エクスポート] をクリックします。

エクスポートされたCSVファイルでは、ヘッダー行に「値」、「カウント」、「パーセント」、「百分位数」の文字列が表示されます。

ESRI ASCII ラスタにエクスポート

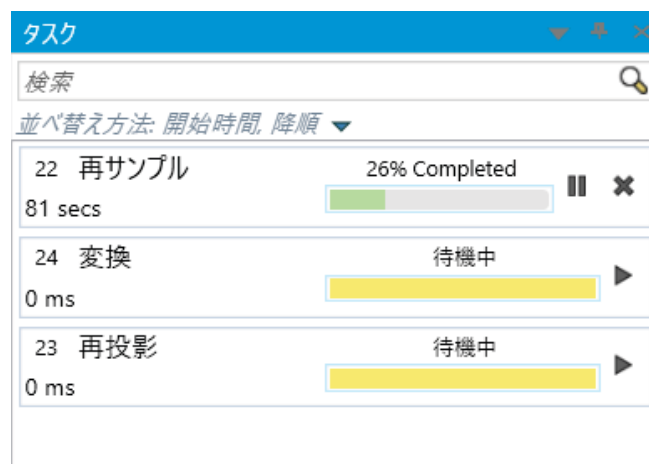
[エクスポート] ツールの [ESRI ASCII グリッド] オプションを使用すると、ラスタ データを ESRI ASCII 形式のラスタにエクスポートできます。ESRI ASCII 形式のラスタは他のソフトウェアアプリケーションでの分析に使用できます。出力ラスタファイルには、ラスタのセルサイズ、行と列の数、原点の座標といったラスタのプロパティを定義するヘッダー情報が含まれます。ヘッダー情報に続き、キャリッジリターン区切りの各行にセル値の情報がスペースで区切って出力されます。

順次処理

MapInfo Pro Advanced の今回のリリースでは、並列処理に加えて順次処理が可能になりました。

これまで、すべての操作は並列処理モードで開始し、使用可能なすべての CPU リソースを使用していました。これからは、タスクを順次処理モードで実行できます。この設定はバックステージの [ラスタの設定] ダイアログで行います。

順次処理モードを有効にすると、ラスタエンジンは特定の操作に集中し、それ以外の操作をキューに入れます。キュー内の操作は、現在の操作が完了するとすぐに自動的に順次開始されます。ただし、特定のタスクを並列に実行したい場合は、そのタスクの ▶ ボタンを [タスク マネージャ] 内でクリックします。たとえば、[複数ファイルからラスタの作成] 操作が巨大なデータセットに対して実行されているとき、[変換] 操作がキュー内で待機しているものとします。この場合、[再生] ボタンをクリックしてタスク マネージャから [変換] 操作を手動で開始することができます。この方法で両方の操作を並列に実行できます。手動により並列モードで開始できる操作の数に制限はありません。



以前のようにすべての操作を並列モードで実行したい場合は、順次処理オプションを無効にします。具体的には、[メモリとパフォーマンス] タブの [ラスタの設定] ダイアログにある [順次処理モードでタスクを実行する] チェックボックスをオフにします。

[処理] をクリックしてラスタ操作の処理を開始すると、タスクがタスク マネージャに追加され、進捗状況を監視できます。処理が完了すると、[出力の設定] の [出力ファイルの表示] チェックボックスをオンにしていた場合は、マップ ウィンドウにラスタが表示されます。

補助ファイル形式のサポート

次の補助ファイル形式を新たにサポートしました。

- **PAMDataset - PAMDataset XML** メタデータから分類テーブル情報を読み込むためのサポートが追加されました。これにより、PAMDataset ファイルを読み込んで分類フィールドとしてレンダリングできるようになりました。
- ***.wcf** - ワープ制御ファイル-読み取り専用でサポート。これは入力ファイルに対して分析は行えるが、結果をファイルに保存できないことを意味します。
- **.pfr** - .pfr ファイルからの分類情報の読み取りをサポートしました。

既知の問題

1/2/4 ビット カラー データ タイプのラスタ用の .PPRC 作成に関する問題

従来のラスタ用のオーバービュー ピラミッド (PPRC) ファイルは、1/2/4 ビット カラー タイプ用には正しく作成されません。

回避策: この問題を解決するには、Multi-Resolution Raster (.mrr) 形式に変換します。データ タイプを 8 ビットのグレースケールに変更することも推奨します。

ロケールに英語以外の言語を設定して SDK API を呼び出すと、ライセンスのエラーが発生する

- 英語がロケールに設定されているマシンでそれ以外の言語で **SDK API** を呼び出すと、ライセンスのエラーが発生する

この問題が発生するのは、ラスタ SDK が、必要とされる API の有効なライセンスを使用して認証されないためです。

回避策 - この問題を回避するには、以下のライセンス DLL を MapInfo Pro インストール ディレクトリ (C:\Program Files\MapInfo\Professional など) を、プログラムを実行しているディレクトリに貼り付けます。

- LicenseManagerAPI.dll
- licenser.dll
- licenser_libFNP.dll
- licenser_res.dll

• MIRCS-189 - TIFF ファイル (1 ビット データ) が正しく表示されない

このラスタは正しく読み込まれ、適切な小縮尺で表示される場合は、正しく表示されます。しかし、大縮尺で表示されると、ラスタが予期したとおりに描画されないことがあります。大縮尺の場合、ラスタ データは概要ピラミッドから取得されます。

この問題が発生するのは、概要ピラミッドにデータを保存するのに使われるデータ型が、元のソース データ型と同じだからです。具体的には、このデータ型は 1 ビットです。このデータ型には解像度が欠けているため、概要レベルは予期されるデータ正確性を欠きます。

通常、このタイプのイメージは、縮小すると背景に埋没する傾向にあります。これは、基本レベルにおける背景のピクセル数が前景のピクセル数を上回るので、前景が徐々に脱落する傾向にあるからです。したがって、拡大するまでファイルにデータがないように見えることがあります。

このような TIFF イメージには、1 ビットの画像 (0 = 白、1 = 黒) が含まれます。これが "Image" フィールド タイプとして MapInfo Pro 17.0 でマウントされ、データが正しく読み込まれます。以前のバージョンで作成された PPRC ファイルがあれば、それらを削除することが勧められます。1 つの回避策は、ソース ラスタを 8 ビットの MRR イメージに変換することです。

- 一時フォルダ サイズ - 一時フォルダの容量が十分でない状況で大きなラスタ データセットに操作を実行すると、このラスタ操作が正常に行われなかったことがあります。MapInfo の一時フォルダに、大きなラスタを作成するのに十分なメモリがあるか確認することをお勧めします。
- イメージのワープ - イメージのワープ機能は、未だに完成途上です。望んだような出力が得られないことがあります。

既知の問題の経過と対応状況

MapInfo Pro Advanced 17.0.3

問題番号	説明と対応状況
MIRAST-16712	ラスタの再投影に関するメモリの問題が発生します。メモリ リークが再投影 API で確認されました。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-362	分類ツールに関する問題 - 空のタイルを持つ分類 MRR の再分類中に MapInfo Pro が反応しなくなります。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-357	Planet の以前のバージョン (MapInfo Pro 12.5) から現在のバージョン (MapInfo Pro 16.0) への等高線プロファイル (.pfc) ファイルのインポートで問題が発生します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-328	ラスタ ファイルのディレクトリパスにドイツ語のウムラウト記号が含まれる場合に、GHX ファイルの作成に関する問題が発生します。GHX ファイルがラスタ ファイル ディレクトリではなくユーザの Temp ディレクトリに作成されました。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-324	特定の .tiff ファイルを MapInfo Pro で開けませんでした。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-297	英語以外のロケール設定で SDK API を呼び出すと、ライセンスのエラーが発生します。 対応状況: 修正済み。

MapInfo Pro Advanced 17.0.2

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-311	ラスタのイメージのエクスポートを BIL、BIP、BSQ、または ESRI .FLT グリッドの使用時に実行するとエラーになります。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-308	断面の Y 軸に縮尺の問題が発生します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-301	MapInfo Pro 17.0.1 で、ボリューム ツールの翻訳が正しくありません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-280	[ラスタ] タブの [表示] グループにあるすべてのツールが、MapInfo Pro 17.0 でも無効のままです。

問題番号	説明と対応状況
	この問題は、MapInfo 17.0 (英語版) を非英語 (トルコ語ロケール) マシンで実行すると発生します。 対応状況: 修正済み。

MapInfo Pro Advanced 17.0.1

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-284	断面ツールを対話式に使用すると、プロファイルの描画に問題が発生します。 対応状況: 修正済み。この問題は、非英語マシンでビルドされた MapInfo 17.0 (英語) の使用中に発生します。システムのロケールを非英語から英語に変更してください。
MIRCS-271	MapInfo バージョン 17.0 で開いたラスタ イメージが、色が薄れるように消えかけて見えます。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-255	ラスタ化ツール - 正しいコンテンツが出力されません。この問題は、ポリゴンが正しく読み取られないために発生します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-246	CSV 形式へのデータ出力: ロケールからリストの区切り記号が取得されません。小数の値が、点ではなくカンマで区切られてエクスポートされます。 対応状況: 修正済み。

MapInfo Pro Advanced 17.0

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-89	リージョン インспекション ツールから正しい出力が得られません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-92/MIRCS-85	等高線ツールが、入力 TAB ファイルにあるサーフェス投影法を無視し、TAB ファイルを常に一般座標系で作成します。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-93	複数ファイルのグリッド化を使用してラスタを作成すると、処理が停止します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-94	65535 を超えるクラスのラスタ化が正しい値になりません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-100	投影法が GeoSoft GRD ファイルに設定されている場合に曲線操作を実行すると、設定された投影法が出力に反映されません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-103	読み込みの間隔をカスタマイズすると、パーセンテージ ステップを使用する機能が等高線ツールに追加されます。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-108	ポイント インспекションの実行中に見つかった Null 値の代わりに使用される値を指定するオプションが提供されます。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-111	ASCII のエクスポート - Unicode 文字を解析し、受け付けるようにインポート ツールを変更しました。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-110/MIRCS-112	断面: エクスポートのオプション。出力 TAB で、フィールド名に不要なアンダースコア文字が表示されます。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-116	[セル値] > [すべて] を選択してからセルをクリックすると、MapInfo Pro が応答しなくなります。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-120	拡張カラーで [行を挿入] ボタンを 2 回クリックすると、MapInfo Pro が応答しなくなります。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-121	併合ツールまたは再サンプル ツールの使用時に、複数バンド ラスタ データが正しいバンド 値を取得しません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-125	出力ラスタ バンドが、操作する入力フィールドと同じデータ型で作成されます。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-126	ラスタの作成ツールの [フィールドの選択] にツールチップが 2 つあります。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-145	ラスタの作成機能で、デフォルトの PRJ ファイルのみ使用でき、ワークグループ PRJ ファイルが使用できません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-146	MapInfo Pro Advanced で拡張カラーにユーザ定義の区切りを使用する方法の説明を詳しく書き換えました。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-147	拡張カラーの区切りオプション テーブルで、統計より小さい値が使用できません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-151	TIF 入力ラスタに対する曲線操作による出力に、[入力に色を合わせる] オプションが反映されません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-152	統計が存在しない場合、曲線操作に問題が発生します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-158/MIRCS-265	Vertical Mapper フィーチャのような保存と読み込みの設定を分類済みグリッド再分類ツールに追加します。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-165	DEM への線が含まれるベクトル ファイルが、ラスタ化ツールで正しく扱えません。 対応状況: 修正済み。この問題は、線/折れ線ジオメトリのサポートがグリッド化操作に追加されたことにより解決されました。
MIRCS-167	可視域操作の出力が正しくありません。出力が若干のポイントに生成されません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-169	曲線操作の使用時にエラーが発生します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-173	ラスタへの変換を行うと線が入ります。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-179	分類操作で .class エントリが反映されません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-181	Vertical Mapper のような複雑な可視域機能を可視域ツールに追加します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-182	Vertical Mapper GRC ファイルが、ポリゴンに正しくクリップされません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-191	パラメータ単位が "Distance" に設定されている場合、最大三角形サイズの正確な距離値がラスタの作成ツールで使用されません。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-194	数値または分類ラスタを RGB カラー イメージ (TIF、JPEG、PNG など) に変換する関数がありません。 対応状況: 修正済み。この要求に対応するために、新しいイメージのエクスポート ツールを追加しました。
MIRCS-195	MRR クリップでメモリ エラーが発生します。 対応状況: 修正済み。

問題番号	説明と対応状況
MIRCS-206/MIRCS-129	お客様から報告されたこの問題を解決するために、ポイントインスペクションの機能が強化されました。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-213	拡張カラーとカラー伸縮が、未サポート ファイルに対して有効になります。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-249	断面ブラウザが、小数点以下の桁数に関する制約に反します。 対応状況: 修正済み。
MIRCS-262	マルチポイント TAB ファイルで “View Point Height” が “Constant” に設定されている場合、可視域ツールが正しい結果を提供しません。 対応状況: 修正済み。
LI360	断面プロファイルが、エクスポート後にリセットされます。 対応状況: 修正済み。

システム要件

この製品は、以下の Microsoft Windows デスクトップオペレーティングシステムでテストされています。

- Windows 10 (64 ビット)
- Windows 8.1 (64 ビット)
- Windows 7 Ultimate 64 ビット SP1
- Windows 2016 Server 64 ビット
- Windows 2012 Server R2 64 ビット SP1
- Windows 2012 Server R2 64 ビット (XenApp 7.5 使用)
- Windows 2008 Server R2 64 ビット SP1
- Windows 2008 Server R2 64 ビット SP1 (XenApp 6.0 使用)

必要条件

MapInfo Pro をインストールする前に、コンピュータに最新の更新プログラムが適用されていることを確認するようお勧めします。

インストール ウィザードは、以下のコンポーネントがシステムにインストールされているかどうかを調べます。インストールされていない場合は、インストールを指示するメッセージが表示されます。必要なコンポーネントをインストール ウィザードからインストールするように選択することも、インストールを中断することもできます。

- Microsoft Office Access データベース エンジン 2010 (x64)

32 ビット Office 2010 ドライバがインストールされている場合はインストールされません。

- Microsoft Office Access データベース エンジン 2007 (x64)

これは、64 ビットの 2010 ドライバがインストールされた 64 ビットのオペレーティング システムにのみインストールされます。

- Microsoft .NET Framework 4.6.1

Windows 8.1 と Windows Server 2012 R2 の場合は、Microsoft .NET Framework 4.6.1 をインストールする前に KB2919355 をインストールする必要があります。

- Microsoft Visual C++ 2015 更新プログラム 3 再頒布可能パッケージ (x64)

- Windows の修正プログラムと更新プログラム:

オペレーティング システム	必要な更新プログラム
Windows 7 および Server 2008 R2	修正プログラム KB3154529
Windows 8 および Server 2012	修正プログラム KB3154527
Windows 8.1 および Server 2012 R2	修正プログラム KB3154528
Windows 10 *	累積的な更新プログラム KB3156387

* Windows 10 上において、インストール ウィザードは累積的な更新プログラムをインストールしません。このリリースをインストールする前に、この更新プログラムがインストールされていることを確認してください。

Windows 8.1 および Server 2012 R2

Windows 8、8.1、Server 2012、または Server 2012 R2 の場合は、MapInfo Pro をインストールする前に Microsoft 更新プログラム 1 (KB2919355) をインストールする必要があります。この更新プログラムは、<https://support.microsoft.com/en-us/kb/2919355>で入手できます。この更新プログラムのインストール後に、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。

32 ビットおよび 64 ビット版の Microsoft Office ドライバのインストール

MapInfo Pro は、64/32 ビット版の Microsoft Excel および Access からのスプレッドシートやテーブルにアクセス可能な 64 ビット アプリケーションです。ただし、MapInfo Pro 内で Excel や Access から取得されたデータを使用するには、Microsoft Office の 64 ビット版ドライバを使用する必要があります。

MapInfo Pro のインストールプロセスにおいて、64 ビット版の Microsoft Access Database Engine 2010 Redistributable for Office がインストールされます。

32 ビット版の Microsoft Office が、MapInfo Pro と同じシステム上で必要な場合は、以下の手順に従って両方のバージョンの Office ドライバをインストールします。

注: Microsoft は、製品エディションまたはそのコンポーネント間の非互換性を理由に、同一コンピュータ上に両方のドライバをインストールするケースをサポートしません。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/2269468> を参照してください。

Microsoft Office の 32 ビット ドライバと 64 ビット ドライバを同一システム上にインストールするには:

1. <http://www.microsoft.com/en-ca/download/details.aspx?id=13255>から Microsoft Office ドライバをダウンロードします。
32 ビット版は、AccessDatabaseEngine.exeです。64 ビット版は、AccessDatabaseEngine_x64.exeです。
2. 64 ビット版の Office ドライバがインストールされている場合は、これをアンインストールし、システムを再起動します。64 ビット版の MapInfo Pro をインストール済みの場合は、これが既にインストールされています。
3. 32 ビット版の Office 2010 ドライバをインストールします。
4. システム フォルダ (例えば C:\Windows\System32) で、cmd.exe を右クリックして、**[管理者として実行]**を選択します。

5. コマンド プロンプトで、64 ビット版の Office 2010 ドライバがあるフォルダに移動します。
6. コマンド: AccessDatabaseEngine_x64.exe /passiveを入力して、Enter キーを押します。
7. 32 ビット版の Microsoft Office 2007、2010、2013、または 2016 がインストールされている場合は、その mso.dll レジストリ キーを削除するか、名前を変更します。
 - a) レジストリ エディタ ウィンドウを開きます。Microsoft の **[スタート]** メニューの **[検索]** フィールドに regedit と入力し、**[regedit.exe]** をクリックします。
 - b) レジストリ エディタ ウィンドウで、
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Office\14.0\Common\FilePaths
に移動します。
 - c) mso.dll という値がある場合は、削除するか、名前を変更します。
ファイルの削除または名前変更をしない場合、Microsoft Office アプリケーションを起動するときに再構成のメッセージが表示される場合があります。

これで両方のドライバがシステム上にインストールされました。

Office 2013 の 32 ビット版の Excel および Access ファイルを開く場合

MapInfo Pro の 32 ビット版と 64 ビット版の両方が、32 ビット版の Microsoft Office 2013 とともに同じマシンにインストールされている場合、問題が起きる可能性があります。32 ビット版の MapInfo Pro は、32 ビット版の Excel 2013 または Access 2013 で生成されたテーブルを開くと、予期せず終了する場合があります。

『MapInfo Pro インストール ガイド』のセクション「32 ビット版および 64 ビット版の Microsoft Office ドライバのインストール」には、Microsoft Office の 32 ビット版と 64 ビット版のドライバを同じシステムにインストールする方法が説明されています。この手順に従っても、Excel 2013 および Access 2013 のテーブルを開くと 32 ビット版の MapInfo Pro が予期せず終了する場合は、次の手順に従います。

1. Microsoft Access データベース エンジン 2010 のドライバを 2 つともアンインストールします。
 - a) **[スタート]** メニューの **[コントロール パネル]** を選択します。
 - b) コントロール パネルで **[プログラムと機能]** を選択します。
 - c) リストをスクロールして、**[Microsoft Access database engine 2010]** を探し、選択します。リストには、このアプリケーションのインスタンスが 2 つあります。
 - d) **[アンインストール]** を選択し、アンインストール手順の指示に従います。
 - e) もう 1 つの **[Microsoft Access database engine 2010]** を選択し、アンインストールします。

2. 32 ビット版の Microsoft Access Runtime 2013 (AccessRuntime_x86_en-us.exe) を <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=39358> からダウンロードし、インストールします。
3. 64 ビット版の Microsoft Access データベース エンジン 2010 (AccessDatabaseEngine_x64.exe) を <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=13255> からダウンロードします。ダウンロード場所 (C:\Users\myname\Downloads など) をメモします。

注意: インターネット ブラウザ ウィンドウから実行 (インストール) せずに、まずダウンロードします。
4. 64 ビット版の Microsoft Access データベース エンジン 2010 (AccessDatabaseEngine_x64.exe) をインストールします。
 - a) コマンド プロンプト ウィンドウを管理者権限で開きます。システム フォルダ C:\Windows\System32 で、cmd.exe を右クリックして、**[管理者として実行]** を選択します。
 - b) コマンド プロンプトで、ディレクトリを AccessDatabaseEngine_x64.exe ファイルの場所に変更します (cd C:\Users\myname\Downloads と入力して、**Enter** キーを押します)。
 - c) コマンド プロンプトで、AccessDatabaseEngine_x64.exe /passive と入力して、**Enter** キーを押します。
5. 32 ビット版の Microsoft Office 2007、2010、2013、または 2016 がインストールされている場合は、その mso.dll レジストリ キーを削除するか、名前を変更します。
 - a) レジストリ エディタ ウィンドウを開きます。Microsoft の **[スタート]** メニューの **[検索]** フィールドに regedit と入力し、**[regedit.exe]** をクリックします。
 - b) レジストリ エディタ ウィンドウで、
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Office\14.0\Common\FilePaths
に移動します。
 - c) mso.dll という値がある場合は、削除するか、名前を変更します。
ファイルの削除または名前変更をしない場合、Microsoft Office アプリケーションを起動するときに再構成のメッセージが表示される場合があります。

これで 32 ビットと 64 ビットの両方のドライバがシステムにインストールされました。32 ビット版と 64 ビット版の両方の MapInfo Pro で Access 2013 および Excel 2013 のファイルを開くことができます。

MapInfo Pro のデータベース接続とサポート

MapInfo Pro は、以下の空間データベース サーバに対応しています。

- Microsoft SQL Server 2016 (SQL Server Spatial と呼ばれる)
- Microsoft SQL Server 2014 (SQL Server Spatial と呼ばれる)
- Microsoft SQL Server 2012 (SQL Server Spatial と呼ばれる)
- PostgreSQL 9.5.3 と PostGIS 2.2.2
- PostgreSQL 9.4.2 と PostGIS 2.1.7
- PostgreSQL 9.2.2 と PostGIS 2.0.1
- SQLite 3.8
- Oracle Spatial 12c R1
- Oracle Spatial 11g R2

MapInfo Pro がリモート データベースにアクセスするためには、クライアントまたはドライバをインストールする必要があります。MapInfo Pro は以下の ODBC ドライバをサポートしています。

- Microsoft Access ODBC
- Microsoft SQL Server Native Client 11.0
- PostgreSQL Unicode ODBC ドライバ 9.05.03
- FDO ToolKit 3.8 (SQLite で使用、MapInfo Pro とともにインストール)
- Oracle Instant Client 12.1.0.2.0

次のアプリケーションのテーブルを開いて、マップを作成可能にすることもできます。ただし、ポイント データ用のみです。

- Microsoft Access 2010、2013、2016

リモート データベース情報の操作については、ヘルプ システムの「リモート データへのアクセス」および「データベース接続の環境設定を行う」を参照してください。

Microsoft Office のサポート

MapInfo Pro は、バージョン 1997 ～ 2016 の Microsoft Excel (*.xls、*.xlsx) および Microsoft Access (*.mdb、*.accdb) 形式をサポートします。

MapInfo Pro でサポートされる Web サーバ

MapInfo Pro は、以下の Web サーバをサポートします。

- GML (Geospatial data in XML format) 2.1.2。ユニバーサル トランスレータ (FME クイック トランスレータ) は 3.2 までのバージョンをサポートします。
- WFS (Web Feature Service) 1.0、1.1、および 2.0
- WFS 1.0 を使用する WFS-T (Web Feature Service with transactions)
- WMS (Web Map Service) 1.3
- WMTS (Web Map Tile Service) 1.0

また、以下のマッピング タイル サーバもサポートします。

- Google Enterprise タイル サーバ
- MapXtreme.NET 8.0 タイル サーバ
- Microsoft Bing タイル サーバ
- OpenStreetMap タイル サーバ
- Spectrum Spatial Server 11.x

DVD からのインストールにはドライブ名が必要

MapInfo Pro のインストーラは、明示的な UNC パスではなく、"G" のようなドライブ名を指定して実行する必要があります。たとえば、USERSPC というコンピュータに MapInfo Pro DVD があるとします。他のユーザは、USERSPC という名前を使用してそのデバイスにアクセスできますが、その場合はドライブ名がありません。MapInfo Pro のインストール プログラムを起動するには、ドライブ名が必要です。この状況に対応するには、ネットワーク ドライブに特定のドライブ文字を割り当てます。

1. Windows Explorer で、MapInfo Pro SETUP.EXE がある共有ディレクトリまたは DVD ドライブを右クリックし、[ネットワーク ドライブの割り当て] を選択します。
2. この CD-ROM に割り当てたドライブ名を選択します。
3. 新しく割り当てたドライブ名を付けて、インストールプログラムを起動します。

MapInfo Pro のインストール/アップグレード

インストール/アップグレード作業を開始する前に、以下の事項を確認することをお勧めします。

- インストーラを実行するには、管理者権限が必要です。
- インストールを実行するには、環境変数 **TEMP** が有効なディレクトリに設定されている必要があります。
- インストールを開始する前にすべての **Windows** プログラムを終了する必要があります。

MapInfo Pro のインストーラは、**Pro** を複数の言語で実行するのに必要なすべてのファイルをインストールします。インストール プロセスで最初に確認されるのは、**Pro** を実行するときどの言語を使用するかです。この言語が、**Pro** アプリケーションのデフォルト言語になります。選択肢として一覧に表示される言語は、インストーラでどの言語が使用できるかで左右されます。ローカライズ プロセスが完了すれば、最終的にすべての言語が使用可能になる予定です。

Pitney Bowes オンライン アカウントを登録済みの MapInfo Pro ユーザは、MapInfo Pro を接続済み **Viewer** 専用 (サブスクリプション) モードで実行できます。MapInfo Pro インストーラは、MapInfo Pro を **Viewer** (サブスクリプション) モードで起動するショートカット (アイコン) を Windows の [スタート] メニューに追加します。このアイコンは、MapInfo Pro の通常の [スタート] メニュー ショートカットの隣に配置されます。

上級ユーザは、**Pro** をインストール時に選んだ言語とは違う言語で実行したいと思うかもしれません。これが可能になります。MapInfoPro.exe.config を MapInfo Pro のインストール場所の言語サブフォルダ (fr、de、ja、zh-CN など) から MapInfo Pro のインストール場所の MapInfoPro.exe.config の上にコピーします。ほとんどのユーザはこうする必要はありませんが、もし行う場合は、最初にこのファイルのコピーを作成することを忘れないでください。リボンのユーザ設定など、多数の **Pro** 設定はロケールに固有です。

Pro の各国語バージョンと、使用されるサブフォルダがこれに該当します (.config ファイルを編集して AppLocale または System Charset を変更することは、上級ユーザのみが行ってください)。

UI のロケールとサブ フォルダ名	AppLocale 名	AppLocale コード	言語の国 / 地域	コード ページ	SystemCharset 名
zh-CN	zh-cN	2052	中国語 (簡体字)	936	"WindowsSimpChinese"
cs	cs-CZ	1029	チェコ - チェコ共和国	1250	WindowsLatin2

UI のロケールとサブ フォルダ名	AppLocale 名	AppLocale コード	言語の国 / 地域	コード ページ	SystemCharset 名
da	da-DK	1030	デンマーク語 - デンマー ク	1252	WindowsLatin1
nl	nl-NL	1043	オランダ語 - オランダ	1252	WindowsLatin1
ja	en-US	1033	英語 - 米国	1252	WindowsLatin1
fi	fi-FI	1035	フィンランド語 - フィン ランド	1252	WindowsLatin1
fr	fr-FR	1036	フランス語 - フランス	1252	WindowsLatin1
de	de-DE	1031	ドイツ語 - ドイツ	1252	WindowsLatin1
he	he-IL	1037	ヘブライ語 - イスラエル	1252	WindowsHebrew
it	it-IT	1040	イタリア語 - イタリア	1252	WindowsLatin1
ja	ja-JP	1041	日本語 - 日本	932	WindowsJapanese
pl	pl-PL	1045	ポーランド語 - ポーラン ド	1250	WindowsLatin2
ポインタ	pt-BR	1046	ポルトガル語 - ブラジル	1252	WindowsLatin1
ru	ru-RU	1049	ロシア語 - ロシア	1251	WindowsCyrillic
es	es-ES	1034	スペイン語 - スペイン	1252	WindowsLatin1
sv	sv-SE	1053	スウェーデン語 - ス ウェーデン	1252	WindowsLatin1
tr	tr-TR	1055	トルコ語 - トルコ	1254	WindowsTurkish

MapInfo Pro のインストールまたはアップグレードには、対話形式インストール ウィザードを使用するか、コマンド ラインでサイレント モードを使用することができます。

注: MapInfo Pro の詳細なインストール手順は、『[MapInfo Pro インストール ガイド](#)』を参照してください。『[MapInfo Pro インストール ガイド](#)』その他のドキュメントにアクセスするには、DVD のルート フォルダにある `autostart.exe` をダブルクリックして MapInfo Pro DVD オートスタートプレゼンテーションを起動し、**[オンラインリファレンス]**、**[MapInfo Pro インストール ガイド]** の順にクリックします。

MapInfo Pro バージョン 17.0、17.0.1、または 17.0.2 からのアップグレード

2 つ以上のバージョンの MapInfo Pro を一緒にインストールし、実行できます。これまでは、最新バージョンをインストールする前に、インストール済みのバージョンをアンインストールする必要はありませんでした。これは、バージョン 17.0.3 にも当てはまりますが、17.x.x シリーズの前のバージョンがインストールされている場合は別です。この場合は、バージョン 17.0.3 をインストールする前に、インストール済みの 17.x.x シリーズをまずアンインストールする必要があります。

対話形式のインストール プロセスを使用してバージョン 17.0.3 をインストールすると、17.x.x シリーズの前のバージョンがインストールされている場合は、インストーラがアンインストールを行います。詳細については、「[MapInfo Pro の対話形式インストール](#)」を参照してください。

MapInfo Pro バージョン 17.0.3 のサイレント インストールを行う場合は、Windows の **[プログラムの追加と削除]** 設定から、またはコマンド行からサイレントで、17.x.x シリーズのインストール済みバージョンを明示的にアンインストールする必要があります。詳細については、「[MapInfo Pro のサイレント インストール](#)」を参照してください。

MapInfo Pro の対話形式インストール

インストーラを実行するには、管理者権限が必要です。また、環境変数 `TEMP` が有効なディレクトリに設定されている必要があります。

注意: インストール処理を開始する前に、すべての **Windows** プログラムを終了しておくことを強くお勧めします。以前のバージョンをアップグレードする場合は、以前のバージョンをアンインストールしてからアップグレードしてください。

MapInfo Pro では、ユーザごとにアプリケーション データ ファイルが用意されます。この機能はユーザ単位のインストールといい、MapInfo Pro または MapInfo Pro クライアントの初回実行時、および後から MapInfo Pro インストーラを起動するたびに実行されます。アプリケーション データ ファイルには、ペン スタイル ファイル、カスタム シンボル ファイル、主題凡例テンプレート

などがあります。これらのファイルを使用すると、ユーザごとにカスタム設定を行うことができます。

MapInfo Pro をインストールするには

1. DVD からインストールする場合は、インストーラが自動的に起動します。インストーラが自動的に起動しない場合は、DVD ドライブに移動して `autostart.exe` をクリックしてください。ダウンロードからインストールする場合は、MapInfo Pro をダウンロードしたディレクトリに移動し、`setup.exe` ファイルを右クリックしてポップアップ メニューから **[管理者として実行]** を選択し、インストールを管理者権限で実行します。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示されたら、**[許可]** または **[はい]** をクリックして次に進みます。

ウィザードが開始され、インストールを簡単に行うことができます。

2. 起動メニューで **[製品のインストール]** を選択します。
3. **[MapInfo Pro]** を選択してから、**[MapInfo Pro インストーラ]** を選択します。

インストールを続けてよいかどうかをたずねるメッセージが表示される場合があります。**[許可]** または **[はい]** をクリックして次に進みます (どちらもクリックしないままタイムアウトになると、インストールは中断します)。

4. MapInfo Pro のインストールに使用する言語を選択します。

バージョン 17.0.3 では、MapInfo Pro のインストールに英語以外にも 16 言語を使用できます。ブラジル語、中国語、チェコ語、ドイツ語、デンマーク語、スペイン語、フィンランド語、フランス語 (標準)、ヘブライ語、イタリア語、日本語、オランダ語、ポーランド語、ロシア語、スウェーデン語、トルコ語から選択できます。

5. 「**必要条件**」に示すコンポーネントのいずれか 1 つでもシステムにインストールされていない場合は、足りないコンポーネントのインストールを指示するメッセージが表示されます。**[インストール]** をクリックします。

これらのコンポーネントのインストールには数分かかります。各コンポーネントのインストール中、インストールの進行状況が次々と更新されます。

6. 再起動を求めるメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。再起動しなければインストールを続けることができません。
7. **[次へ]** をクリックして処理を続行します。
8. **[ライセンス情報]** ダイアログ ボックスで、記載内容を確認します。**[次へ]** をクリックして続行します。
9. **[ユーザ情報]** ダイアログ ボックスで、以下のいずれかを実行します。

- **[MapInfo Pro - ライセンス版または試用版]** チェックボックスを選択し、ユーザ名、組織、シリアル番号、およびアクセス コードを該当するフィールドに入力して、**[次へ]** をクリックして続行します。

ユーザ名フィールドと組織フィールドは必須です。シリアル番号とアクセスコードも入力すると、MapInfo Pro ライセンス版がインストールされます。資格情報を入力しない場合は、MapInfo Pro の試用版がインストールされます。

これで、入力された情報に基づいて MapInfo Pro のライセンス版または試用版がインストールされ、**[スタート]** メニューに MapInfo Pro へのショートカットが作成されます。

- **[MapInfo Viewer サブスクリプション]** チェックボックスを選択し、ユーザ名と組織を入力して、**[次へ]** をクリックして続行します。

これで、MapInfo Pro がサブスクリプションモードでインストールされ、**[スタート]** メニューに MapInfo Viewer へのショートカットが作成されます。

- 両方のチェックボックスを選択し、**[次へ]** をクリックして続行します。**[スタート]** メニューに MapInfo Pro および MapInfo Viewer へのショートカットが作成されます。

注: **[MapInfo Pro - ライセンス版または試用版]** と **[MapInfo Viewer サブスクリプション]** の両方のチェックボックスをオンにした場合、MapInfo Pro はワークスペース (*.wor) やテーブル (*.tab) など MapInfo Pro 登録済みファイル タイプに関連付けられたデフォルト アプリケーションになります。

シリアル番号とアクセスコードは、製品アクティベーション情報カード、またはライセンス情報が記載された電子メールに示されています。これらは、製品のアクティベーションに使用します。

10. 以下のいずれかを実行します。

- ご購入いただいたライセンスがノード ロック ライセンスの場合、シリアル番号の 3 文字目は **"N"** です。この手順をスキップして、[ステップ 12](#) に進んでください。
- ご購入いただいたライセンスが同時使用ライセンスの場合、シリアル番号の 3 文字目は **"S"** で、配布可能ライセンスの場合は **"D"** です。この場合、**[ライセンス サーバ名]** フィールドと **[ライセンス サーバ ポート番号]** フィールドがダイアログ ボックス上に表示されます。

注: ノード ロック ライセンス、同時使用ライセンス、および配布可能ライセンスの詳細については、『MapInfo Pro インストール ガイド』の第 3 章の「**MapInfo Professional の起動とアクティベーション**」を参照してください。

ライセンス サーバ名とポート番号がわかっている場合は、ここに入力します。ライセンス サーバ名とポート番号がわからない場合は、この情報を入力せずにインストール作業を続行します。この情報は、MapInfo Pro を起動したときに入力することができます。

11. **[次へ]** をクリックして続行します。

12. 以下のいずれかのオプションを選択し、**[次へ]** をクリックして続行します。

- **[すべて]** – リモート データベースへのアクセスおよび接続を含めて MapInfo Pro をデスクトップ アプリケーションとして使用する場合は、このオプションを選択します。
- **[カスタム]** – インストール プログラムによってインストールされるコンポーネントを制限する場合は、このオプションを選択します。例えば、インストーラによってマニュアルやツールが追加されないように設定できます。

13 MapInfo Pro をインストールするフォルダを選択し、**[次へ]** をクリックします。

14 **[インストール]** をクリックしてインストール プロセスを終了します。

MapInfo Pro の対話形式でのインストール手順の詳細は、『**MapInfo Pro インストール ガイド**』の「**第 2 章: MapInfo Pro のインストール**」を参照してください。

MapInfo Pro のサイレント インストール

MapInfo Pro の完全なサイレント インストールを行うには、インストール プロセスに管理者権限が付与されている必要があります。

ユーザ アカウント制御 (UAC) が有効で、インストール プロセスが管理者権限で実行されていない場合、コマンドラインオプション /q および /qn は機能しません。これらのオプションはインストール中のユーザ インターフェイスを無効にしますが、これは Windows の UAC の動作を妨げます。ユーザは UAC と対話して、インストールを管理者として実行するために必要な資格情報を提供する必要があります。ユーザ インターフェイスが無効に設定されている場合、UAC が適切な資格情報を取得できないため、インストールは警告なしで終了します。

この問題を迂回するには、サイレント インストールを実行するときにコマンドラインで /qb オプションを使用します。このオプションを指定すると、インストールが基本ユーザ インターフェイスで実行されるため、UAC からのメッセージがダイアログ ボックスに表示されます。

MapInfo Pro バージョン 17.0、17.0.1、または 17.0.2 がインストール済みの場合は、バージョン 17.0.3 をインストールする前に、まずアンインストールする必要があります。

サイレント アンインストールを実行するには

1. 次のコマンドを入力します。

```
start /wait MsiExec.exe /X{GUID} /qn RETLIC=False SDRLYN=False
```

上記のコマンドの {GUID} は、以下のいずれかで置き換えてください。

- MapInfo Pro バージョン 1700 - {76BBDCCA-97EA-435B-8334-C1E2320200C9}
- MapInfo Pro バージョン 1701 - {1870C3D1-39A1-41CB-8894-ADB153344546}
- MapInfo Pro バージョン 1702 - {BBDC123D-93AC-4CA0-8985-90FBFCBCAA87}

2. 続けて次のコマンドを入力します。

```
CD "%~dp0"
```

/qb オプションを使用してサイレント インストールを行うには

3. コマンド プロンプトで、MapInfo Pro セットアップ ディレクトリに移動します。以下のステップで使用する MapInfo Pro のインストール用 setup.exe は、インストール DVD (D:\) のディレクトリ \Install\MI_PRO\DISK1 に格納されています。
4. 次のコマンドを入力します。

```
setup.exe /L#### /s /v"/qb USERNAME=\"MyUser\"  
COMPANYNAME=\"MyCompanyName\" PIDKEY=M##### ACCD=#####"  
MPRO=#### MVWR=####
```

意味は次のとおりです。

/L#### は 4 桁の言語コード識別子です。たとえば、英語なら setup.exe /L1033 と入力し、フランス語なら setup.exe /L1036、ドイツ語なら setup.exe /L1031 と入力します。日本語なら setup.exe /L1041 と入力します。/L と 4 桁の言語コードはスペースを挟まずに入力してください。

PIDKEY=M##### は製品シリアル番号です。

ACCD=##### はアクセス コードです。

MPRO=True は【スタート】メニューに MapInfo Pro のショートカットを作成し、ワークスペース (*.wor) やテーブル (*.tab) などの登録済み MapInfo Pro ファイル タイプと MapInfo Pro とのデフォルトのファイルの関連付けを設定します。

MVWR=True は【スタート】メニューに MapInfo Viewer のショートカットを作成します。上記の MPRO パラメータが True に設定されていない場合は、ワークスペース (*.wor) やテーブル (*.tab) などの登録済み MapInfo Pro ファイル タイプと新しい MapInfo Viewer (サブスクリプション) とのデフォルトのファイルの関連付けも設定します。この新機能の詳細については、「[MapInfo Pro Viewer](#)」を参照してください。

注: 上記の MPRO と MVWR の両方のパラメータが True に設定されている場合、MPRO が優先され、MapInfo Pro は ワークスペース (*.wor) やテーブル (*.tab) など MapInfo Pro 登録済みファイル タイプに関連付けられたデフォルト アプリケーションになります。

5. ユーザ アクセス制御がダイアログ ボックスに表示されたら、【許可】または【はい】をクリックします。

同時使用ライセンスの場合、ライセンスサーバ名とポート番号を指定するパラメータも含める必要があります。

```
SNAME="LicenseServerName"  
LSPN="LicenseServerPortNumber"
```

サイレント インストールを実行する場合は、適切なライセンス サーバ名とポート番号に置き換えてください。

MapInfo Pro のサイレント インストールの詳細については、『**MapInfo Pro インストール ガイド**』の「**第 5 章: サイレント インストール手順**」を参照してください。

ライセンス サーバ ユーティリティ

旧バージョンのライセンス サーバ ユーティリティ (LSU) をインストールして配布可能ライセンスを管理している場合は、最新のバージョン 5.1 にライセンス サーバ ユーティリティをアップグレードする必要があります。以前のバージョンのライセンス サーバ ユーティリティを MapInfo Pro 17.0.3 とともに使用すると、MapInfo Pro が反応しなくなります。

互換性のないバージョンのライセンス サーバ ユーティリティを使用すると、MapInfo Pro のライセンス取得中に以下の問題が起きる場合があります。

- MapInfo Professional が借用可能ライセンスを借用できない。
- MapInfo Pro が配布ライセンスをライセンス サーバからアクティベーションできない。

このような場合は、ライセンス サーバの管理者に連絡して、最新バージョンのライセンス サーバにアップグレードしてもらってください。

ライセンスを借用またはアクティベートした後に、以前のバージョンのライセンス サーバ ユーティリティに再度ロールバックした場合、借用またはアクティベートしたライセンスをライセンス サーバ ユーティリティに返却できません。このとき、動作がハングアップしてしまうので、エラーメッセージも表示されません。

.MSI ファイルからの MapInfo Pro の修復

Microsoft のユーザ アカウント制御 (UAC: User Account Control) が有効な場合、修復プロセスは .msi ファイルの使用に失敗します。インストール状態によっては修復プロセスが停止し、次のエラー メッセージが表示されます。

MapInfo Pro が実行中です。MapInfo を閉じてから、セットアップをやり直してください。

この問題を回避するには、次の 3 つの操作のうちのいずれかを行います。

- UAC (ユーザ アカウント制御) を無効にし (この操作にはシステム管理者権限が必要です)、コンピュータを再起動して、修復を再度実行します。

- 元の setup.exe ファイルを実行し、メンテナンス モードから修復を実行します。
- インストールされた MapInfo Pro 17.0.3 の .msi ファイルのコピーを管理者権限で実行します。C:\Windows\Installer に移動し、MapInfo Pro 17.0.3 の .msi ファイルを検索します。このファイルには 8e95f1.msi に似た名前が付いていますが、ファイル名はコンピュータによって異なります。C:\Windows\System32 に移動し、cmd.exe ファイルを検索します。このファイルを右クリックし、[管理者として実行]を選択します(この操作には管理者のパスワードが必要となる場合があります)。コマンド
C:\Windows\Installer\nameofMiPro17.0.3.msi を実行し、メンテナンス モードから [修復] を選択します。

Windows 7/Windows Server 2008 R2 におけるユーザ アカウント制御 (UAC) の無効化

Windows 7 または Server 2008 R2 で UAC を無効にするには

1. [ファイル名を指定して実行] メニューから、**msconfig** を起動します。
2. [システム構成] ダイアログ ボックスで、[ツール] タブをクリックします。
3. [UAC 設定の変更] をクリックします。
4. [起動] をクリックします。
5. スライダを [通知] しない] に移動します。
6. [OK] をクリックして、ダイアログ ボックスを終了します。
7. 変更を反映するためにコンピュータを再起動します。

Windows 8.1/Windows Server 2012 R2 におけるユーザ アカウント制御 (UAC) の無効化

Windows 8.1 または Windows Server 2012 R2 で UAC を無効にするには

1. • Windows 8.1 の場合は、[検索チャーム] に移動し、「ユーザー アカウント制御設定の変更」と入力します。
• Windows 2012 R2 の場合は、[コントロール パネル] で [ユーザー アカウント] を選択し、[ユーザー アカウント制御設定の変更] をクリックします。
2. [ユーザー アカウント制御の設定] コンソールで、スライダを [通知しない] に移動します。
3. [OK] をクリックします。

選択内容の確認や管理者パスワードの入力を求めるメッセージが表示される場合があります。

4. 変更を反映するためにコンピュータを再起動します。

.NET Framework 4.6.1、または .NET Framework 4.6.1 の更新プログラムのインストールに失敗する場合は、「[Windows 8.1 および Server 2012 R2 での MapInfo Pro の起動に関する問題の修正](#)」を参照してください。

Windows 10 におけるユーザ アカウント制御 (UAC) の無効化

Windows 10 で UAC を無効にするには

1. [コントロール パネル] で [ユーザ アカウント] を選択し、[ユーザ アカウント制御設定の変更] をクリックします。
2. [ユーザ アカウント制御の設定] コンソールで、スライダを [通知しない] に移動します。
3. [OK] をクリックします。

サポート情報

SQL Server 2012

Windows 7 以降を使って SQL Server 2012 に接続する場合は、SQL Server Native Client 2012 (別名 : SQL Server Native Client 11.0) を使用します。

Bing Maps の有効期限

Bing Maps のライセンスには有効期限があり、MapInfo Pro のバージョンによってその期間は異なります。Bing Maps と **[Bing 道路をマップに追加]** 機能および **[指定した位置へジャンプ]** 機能は、次の日付が過ぎると機能しなくなります。

- MapInfo Pro 17.0: 2020 年 1 月 1 日
- MapInfo Pro 16.0: 2018 年 1 月 1 日
- MapInfo Pro 15.0 および 15.2: 2017 年 1 月 1 日

最新のメンテナンス パッケージをお使いで、MapInfo Pro の以前のバージョン (11.0.x、11.5.x、12.0.x、または 12.5.x) を使い続けたい場合は、Bing サービスを利用できます。詳しくは営業担当者にお問い合わせください。

ツールおよびアプリケーションのダウンロード

以下の Web サイトから MapInfo Pro のドキュメント、試用版、サポート用コンテンツにアクセスできます。

- MapInfo Pro のページ:
www.pitneybowes.com/us/location-intelligence/geographic-information-systems/mapinfo-pro.html
- MapInfo Pro のサポート ページ:
www.pitneybowes.com/us/support/products/mapinfo-pro-support.html

MapInfo Pro の動作に対応しているアプリケーションを以下に示します。

MapInfo MapBasic

www.pitneybowes.com/us/support/products/mapbasic-support.html

MapBasic 開発環境は、BASIC に似た完全なプログラミング言語で、MapInfo Pro または特殊な MapInfo ランタイムで使用するカスタム アプリケーションの作成に使用します。MapBasic を使用することにより、MapInfo Pro の地理機能をカスタマイズしたり、繰り返しの操作を自動化したり、MapInfo Pro を他のアプリケーションに統合したりすることができます。

MapInfo EasyLoader

www.mapinfo.com/easyloader

EasyLoader を使用すると、MapInfo の .tab ファイルを Oracle、SQL Server、Microsoft Access、PostgreSQL / PostGIS などのリモート データベースにアップロードすることができます。

MapInfo ライセンス サーバ

www.pbinsight.com/support/product-downloads/item/mapinfo-license-server-utility-v4.9

このライセンス サーバは、MapInfo Pro のための Pitney Bowes 製品ライセンスに関する要求を処理します。配布可能、同時使用、または借用ライセンスが対象になっています。

これらのダウンロードをインストールするには、ダウンロード ファイルを一時フォルダに解凍し、そのフォルダに移動して setup.exe を起動します。インストール ウィザードのガイダンスに従って、インストールを行います。

ドキュメントの格納場所の確認

MapInfo Pro のドキュメント (PDF 形式) は MapInfo Pro とともに Documentation サブフォルダ (たとえば、C:\Program Files\MapInfo\Professional\Documentation) にインストールされます。PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat Reader をインストールしておく必要があります。Adobe Acrobat Reader の無償コピーは、<http://www.adobe.com> でダウンロードできます。

MapInfo Pro のインストール手順は、『*MapInfo Pro インストール ガイド*』を参照してください。『*MapInfo Pro インストール ガイド*』その他のドキュメントにアクセスするには、DVD のルートフォルダにある autostart.exe をダブルクリックして MapInfo Pro DVD オートスタート プレゼンテーションを起動し、**[オンライン リファレンス]**、**[MapInfo Pro インストール ガイド]** の順にクリックします。

ドキュメントは Pitney Bowes の Web サイト (www.pitneybowes.com/us/support/products/mapinfo-pro-support.html) から入手できます。

インストール手順はインストール ガイドに記載

ワークグループ インストールを実行するときのシステム要件、インストール手順、およびシステム管理者向けの注意事項については、『*MapInfo Pro インストール ガイド*』を参照してください。ソフトウェアのインストーラから、**[オンライン リファレンス]**、**[MapInfo Pro インストール ガイド]** の順にクリックします。

ライセンスをアクティベートする手順はインストール ガイドに記載

MapInfo Pro ライセンスをアクティベートする手順については、『*MapInfo Pro インストール ガイド*』を参照してください。『*ライセンスとアクティベーション*』にも同じ情報があります。ソフトウェアのインストーラから、**[オンライン リファレンス]** をクリックし、次に **[MapInfo Pro インストール ガイド]** または **[ライセンスとアクティベーション]** をクリックします。

『*MapInfo Pro Data Directory*』 ドキュメント

MapInfo Pro のサンプルデータとともに、サンプルデータの説明が記載された『*MapInfo Pro Data Directory*』ドキュメントが提供されています。ソフトウェアのインストーラから、**[オンライン リファレンス]**、**[MapInfo Pro データ ディレクトリ]** の順にクリックします。

サンプル データの強化

初めてご利用いただく方の便宜を図るために、Pitney Bowes Software Inc. は、データの背景として使用できる米国中心の地図と世界全体の地図を提供しています。MapInfo Pro に付属する無償データをインストールするには、『*MapInfo Pro インストール ガイド*』の「データのインストール」を参照してください。この製品に付属するサンプル データの説明は、『*MapInfo Pro Data Directory*』ドキュメントを参照してください。

オープン ソースの所有権

この製品には、MIT ライセンスの下でライセンス供与される GeoJSON.NET が付属しています。このライセンスは <https://github.com/GeoJSON-Net/GeoJSON.NET/blob/master/LICENSE.md> からダウンロードできます。このソフトウェアのソース コードは <https://github.com/GeoJSON-Net/GeoJSON.Net> から入手できます。



3001 Summer Street
Stamford CT 06926-0700
USA

www.pitneybowes.com